



2016年度 東北大学留学生 学生生活調査まとめ

Tohoku University International Student Survey 2016



2016年度 東北大学留学生 学生生活調査の報告にあたって

高度教養教育・学生支援機構
機構長 花輪公雄

本学では、2009年に採択された文部科学省の国際化拠点整備事業「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業（通称グローバル30）」の採択を受け、国内ではいち早く英語のみで学位が取得できる3つの国際学士コースや15の大学院国際コースを設置・拡充してまいりました。

2014年にはスーパーグローバル大学創成支援事業に採択され、世界の卓越した大学との連携・協働により、グローバル30の取組を一層発展させ、優秀な留学生を迎え入れるための研究・教育環境の整備に努めてまいりました。

2017年5月現在、本学の留学生数は2,027人と過去最高となり、全学生の10%以上に達しています。この間、留学生を取り巻く環境も大きく変化し、本学では国際交流サポート室の設置や国際広報活動の活発化など、留学生の支援・広報体制の充実を図ってきました。

本調査は、2012年に実施した同様の調査に次ぐ2回目の全学の留学生を対象とした調査です。調査の目的は、本学の国際化の進展や留学生が直面する問題を包括的に把握・検証し、留学生の教育支援や学内外への情報発信の改善につなげることです。

調査対象は本学に在籍する正規および非正規留学生（研究生、交換留学生等）で、日・英両言語によるWeb調査を2016年12月～2017年1月に実施しました。有効回答者数は605名、有効回答率は約28.0%となり、比較的高い回収率から留学生の本調査に対する関心の高さが伺えます。

本調査に協力してくださった留学生の皆さんに感謝いたしますとともに、本調査の結果が、本学における質の高い研究・教育・支援の向上と国際化の推進に結実することを切に願います。

contents

2016年度 東北大学留学生 学生生活調査 報告書 〈概要〉	1
1 調査回答者の基本情報	4
2 留学の動機・留学情報の収集	10
3 学習・研究環境の満足度	15
4 生活面・留学生支援の満足度	17
5 卒業後の進路	20

2016年度 東北大学留学生 学生生活調査 報告書 〈概要〉

【調査の目的】

東北大学留学生のキャンパスにおける学習・研究生活の実態を把握することで、本学の国際化の進展や留学生が直面する問題を包括的に検討し、留学生の教育支援や学内外への情報発信の改善につなげる。

【実施組織】

高度教養教育・学生支援機構グローバルラーニングセンターおよび国際連携推進機構

【対象者】

調査期間中に本学に在籍した留学生で、在籍身分は学部生/大学院生/交換留学生/研究生等。2,161名（2016年11月1日時点の在籍留学生数）

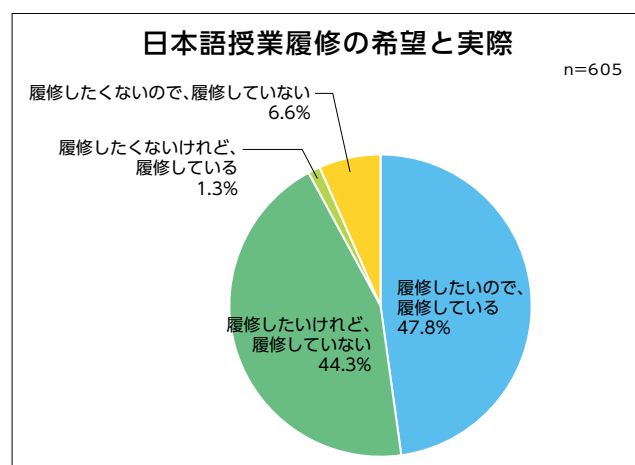
【調査期間・方法・回収状況】

2016年12月16日～2017年1月10日を調査期間とし、ウェブアンケートを日・英語で実施した。調査項目は「基本情報」「留学の動機と留学情報収集方法」「学習・研究環境」「生活面の支援」「卒業後の進路」で、自由記述は日英どちらでも回答可とした。回答者数は605名、回収率は28.0%であった。

【結果の概要】

●基本情報

- 留学生の身分や所属学部・研究科によって回答率のばらつきがあるものの、出身国・地域は本学留学生の構成をほぼ反映していた。
- 過半数の回答者が、学生生活で英語を使用すると回答した。日常生活では日本語と英語の使用者がそれぞれ同数程度であった。
- 日本語を学びたいとする者が90%以上いる一方で、実際に履修できた者は約半数（47.8%）にとどまった。

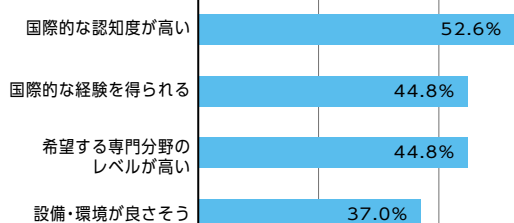


●留学の動機・留学準備

- 本学留学の動機については「国際的な認知度が高い」（52.6%）「国際的な経験を得られる」（44.8%）「希望する専門分野のレベルが高い」（44.8%）が上位を占めた。
- 留学前に情報を得るため最も利用された媒体は、本学ウェブサイト（61%）であり、事前にもっと知りたかった情報は「研究者・研究内容情報」（56.4%）や「奨学金情報」（46.8%）であった。

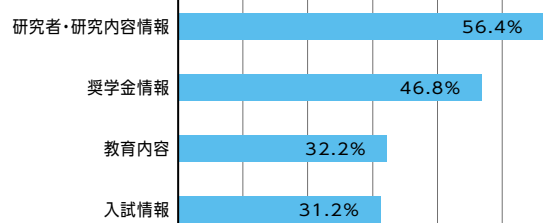
東北大学に魅力を感じた点（上位4項目）

複数回答可、n=2,205



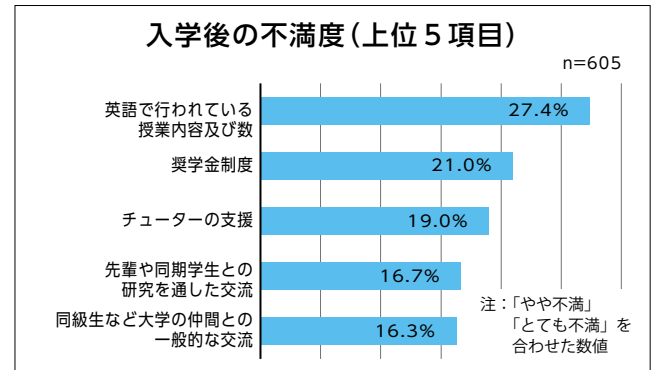
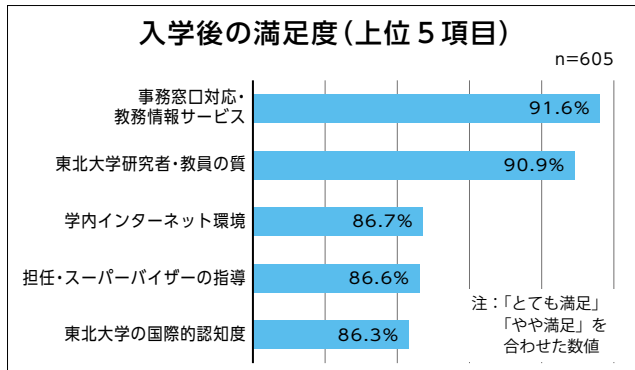
留学準備中に欲しかった情報（上位4項目）

複数回答可、n=2,212



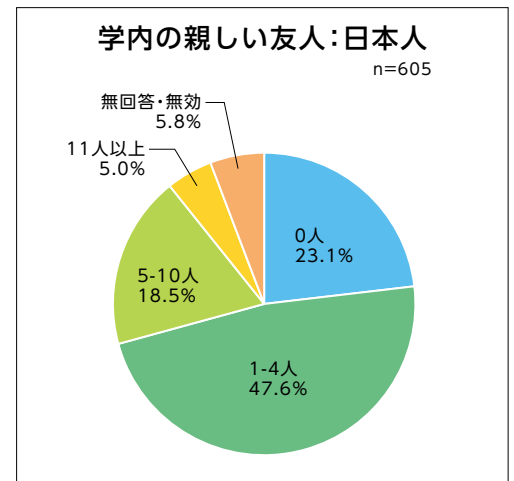
●満足度

- 学習・研究環境においては「研究者や教員の質」(90.9%)「担任・スーパーバイザーの指導」(86.6%)等、教員の研究・教育活動に関するものや、学内のインターネット環境(86.7%)、事務窓口対応・教務情報提供サービス(91.6%)などの学生サービスに関する項目で高い満足度がみられた。
- 一方、「英語で行われている授業及び内容」には不満と回答する者が比較的多く(27.4%)、特に学部生と大学院生の正規留学生における満足度が低かった。



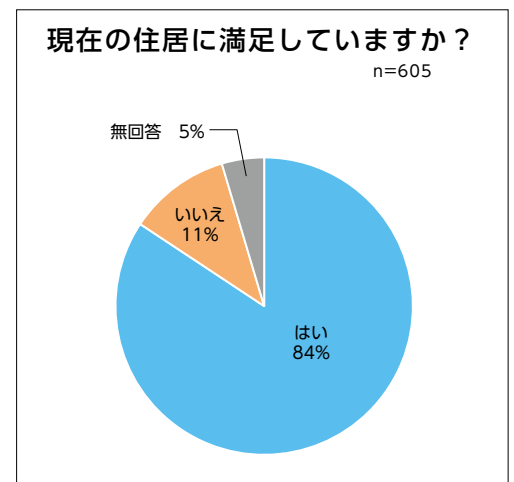
●学内の交流機会

- 回答者の70%以上が学内の日本人の親しい友人は4人以下であると、同国出身の親しい友人も4人以下が最多で半数近くにのびた。留学生の学内での孤立が懸念される結果となった。
- 80.3%の学生が「もっと日本人学生と交流したい」と回答した。学部研究生(93%)と交換留学生(92.4%)でその割合が高かった。
- 日本人との交流機会については、「研究室・ゼミ」(73.1%)が最も高く、また「チューターとの面接・活動」(32.9%)も貴重な日本人との交流機会であった。



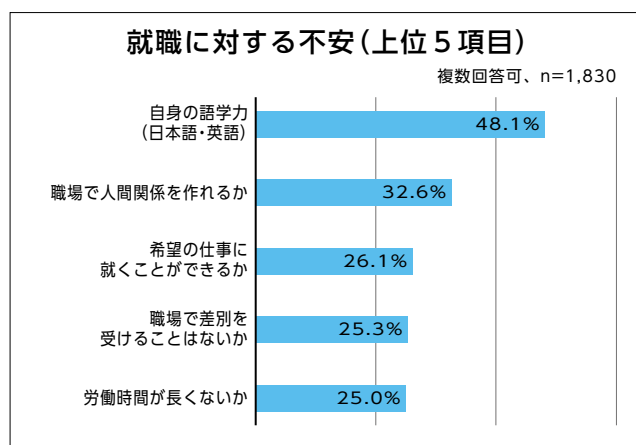
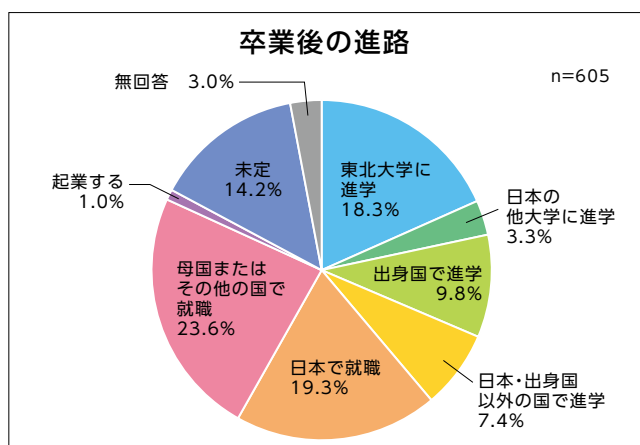
●住環境

- 回答者の84.3%が現在の住環境に「満足」と回答している。全員が大学寮に入寮している交換留学生で特に満足度が高い(89.4%)。
- 自由記述回答では大学寮、ユニバーシティハウス三条に対する高い評価が示された。一方、改善が望まれる点は「入寮期間の延長」、次いで「寮設備の改善」であった。



●卒業後の進路

- 卒業後の進路希望は、「母国またはその他の国で就職」(23.6%)「日本で就職」(19.3%)「東北大学に進学」(18.3%)の順で多かった。職種は「研究職」(61.8%)が最も多く、次いで「技術職」(32.9%)「専門職」(21.0%)「教育職」(20.3%)となった。
- 日常生活で日本語を使用する学生の間では「日本で就職」が34.9%、英語を使用する学生では「母国またはその他の国で就職」が27.4%と最も多かった。反対に英語を生活言語とする学生の「日本で就職」は10.5%にとどまった。
- 就職に対して最も不安を感じるのは「語学力」(48.1%)であった。日常生活で日本語を使用する学生は、「語学力」(53.3%)に次いで「職場での人間関係を築くこと」(45.3%)に対して不安を感じている。
- 就職支援サービスにおいて最もニーズが高いのは「留学生を採用する企業情報の提供」(55.0%)と「日本での就職活動の基礎知識の説明・紹介」(50.9%)であった。
- インターンシップの情報提供に対する要望が高く、日常生活で英語を使用する学生では、日本国内・海外でのインターンシップを合わせると、52.2%が情報提供を希望し、日本語を使用する学生(35.6%)に比べ、そのニーズが高いことが分かる。また、英語使用者は、国内(9.7%)よりも国外(27.2%)でのインターンシップ情報を求める傾向にあることが示された。



【自由記述より(代表的なコメントを抜粋)】

- ▶履修登録方法や開講科目情報をホームページに分かりやすく掲載してほしい。
- ▶もっと先生と学生の意見交換の機会が多い授業を受けたかった。
- ▶英語で行われる授業をより多く開講すべき。
- ▶授業は内容が高度で面白かった。一つだけ心配だったのは、授業で学んだ理論を用いた演習をする機会が限られていたこと。
- ▶日本人学生に、もっと恥ずかしがらずに英語を話してほしい。少なくとも大学院生には、ゼミ等で英語でプレゼンテーションをすることを必須してほしい。
- ▶より長く日本に滞在するであろう博士課程の学生向けに、夕方の日本語クラスの開講を希望する。
- ▶留学生に送るメールは日本語ではなく英語にしてほしい。ほとんどのメールが日本語で来るため、毎回友達や先生に訳してもらう必要がある。
- ▶現在寮に住んでいますが、安いし快適です。
- ▶インターナショナルハウスにもっと住みたかった。1年は短すぎる。卒業まで寮に住めればよい。
- ▶クラブやサークルへの参加方法を紹介してほしい。
- ▶ハラルフードに関する情報を提供してほしい。

1

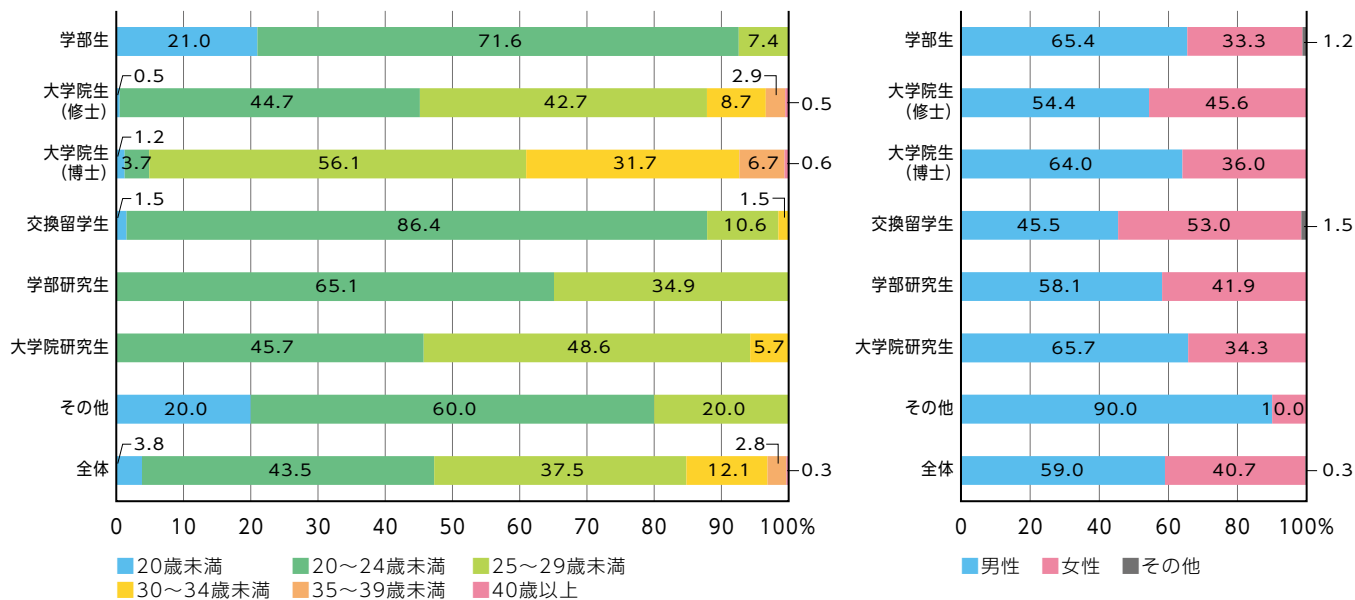
調査回答者の基本情報

1. 所属学部・研究科・研究所等

	学部生	大学院生 (修士)	大学院生 (博士)	交換 留学生	学部 研究生	大学院 研究生	その他	全体
文学部・文学研究科	3	1	1	9				14
教育学部・教育学研究科		1	1					2
法学部・法学研究科		1		1		1		3
経済学部・経済学研究科	5	49	10	7	16	3		90
理学部・理学研究科	14	21	26	4	1	6		72
医学部・医学系研究科		4	6					10
歯学部・歯学研究科		3	25		1	2		31
薬学部・薬学研究科	1	4	3		1	3		12
工学部・工学研究科	35	38	32	26	8	6	4	149
農学部・農学研究科	11	5	4	4	6	2	1	33
国際文化研究科	1	7	1	1				10
情報科学研究科		20	12	1		4	1	38
生命科学研究科		5	9	1	1	2		18
環境科学研究科		15	17	1				33
医工学研究科	1	1	8		1	2		13
教育情報学教育部		21			5	1		27
金属材料研究所	1	1	4	1			1	8
加齢医学研究所								0
流体科学研究所			2		1			3
電気通信研究所	1	5	1					7
多元物質科学研究所		1	1			1		3
災害科学国際研究所				1	2	1		4
学際高等研究教育院								0
高度教養教育・学生支援機構	3			4			1	8
高等教育開発推進センター								0
東北アジア研究センター		1						1
学際科学フロンティア研究所 (FRIS)			1					1
原子分子材料科学高等研究機構 (AIMR)								0
マイクロシステム融合研究開発センター						1		1
サイバーサイエンスセンター								0
その他	5	2		5			2	14
合計	81	206	164	66	43	35	10	605

- 本学の留学生 2,161 名（平成 28 年 11 月 1 日現在）のうち、28.0% が本調査に回答している。
- 学部生、大学院生（修士）、大学院生（博士）の回答率は、30% 前後であるが、学部研究生の回答率が 15.8% と低い。
- 学部・研究科、研究所によって回答率にばらつきが見られた。理系の学部・研究科、研究所はほぼ 30% 以上であったが、文系は経済学部・経済学研究科の 42.7% を除き、学部・大学院とも 6～9% にとどまった。

2. 年齢、性別

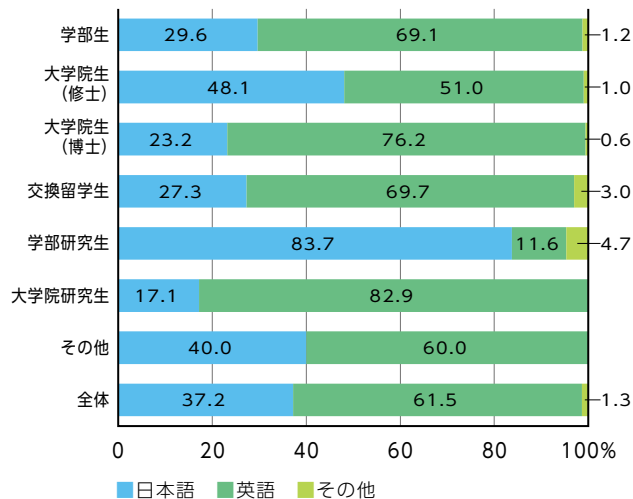


3. 出身国・地域

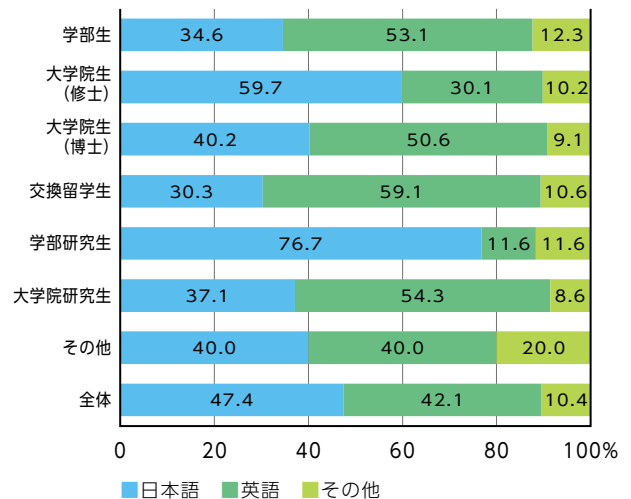
	学部生	大学院生 (修士)	大学院生 (博士)	交換留学生	学部研究生	大学院研究生	その他	全体
中国	19	114	71	20	37	11		272
インドネシア	6	19	18	9		1	1	54
韓国	9	6	4	3		1	2	25
タイ	10	4	6	3				23
フランス	4	6		5		2	4	21
ドイツ	3	1	3	6	1	7		21
台湾	3	7	2	6	1	2		21
ベトナム	3	5	8	2				18
バングラデシュ		5	8		1			14
マレーシア	4	1	8					13
アメリカ合衆国	6	3	2	1			1	13
インド	2	2	3	1				8
モンゴル	2	2	3					7
トルコ	1	3	3					7
スウェーデン	1			2		2	1	6
フィンランド	1		2	2				5
ブラジル		2	2					4
ロシア		1	2	1				4
フィリピン		1	1					2
イラン			1					1
その他	7	24	17	5	3	9	1	66
合計	81	206	164	66	43	35	10	605

● 本学の留学生の出身国・地域は、中国が約半数を占め、次いでインドネシア、韓国、タイ、台湾、マレーシア、フランス、ベトナム、ドイツ、アメリカ合衆国 (平成 28 年 11 月 1 日現在) の順に多い。今回の調査回答者は、本学の留学生の出身国・地域の構成をほぼ反映する結果となった。

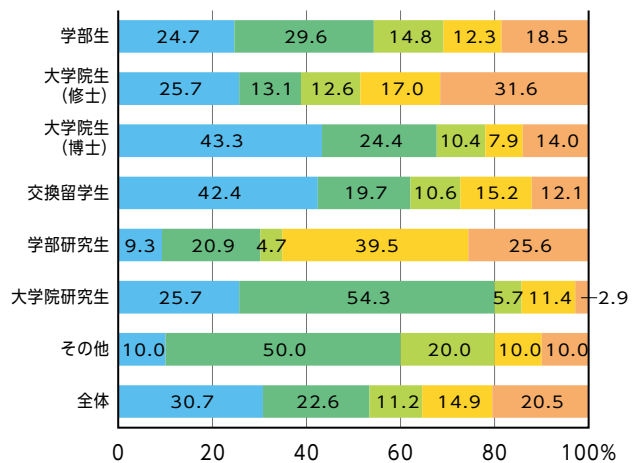
4. 大学生活で最も使用する言語



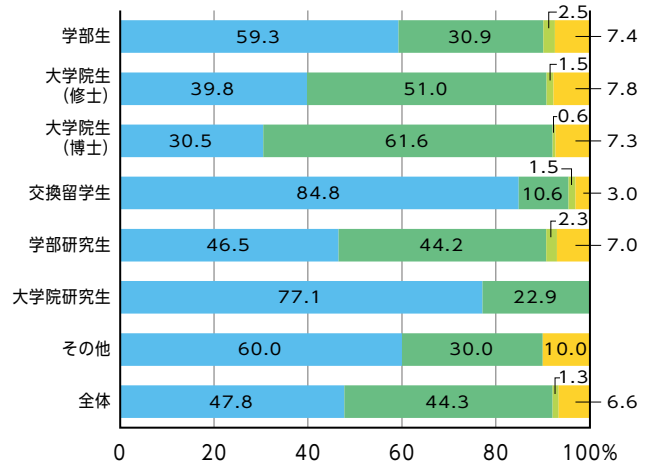
5. 日常生活で最も使用する言語



6. 日本語のレベル

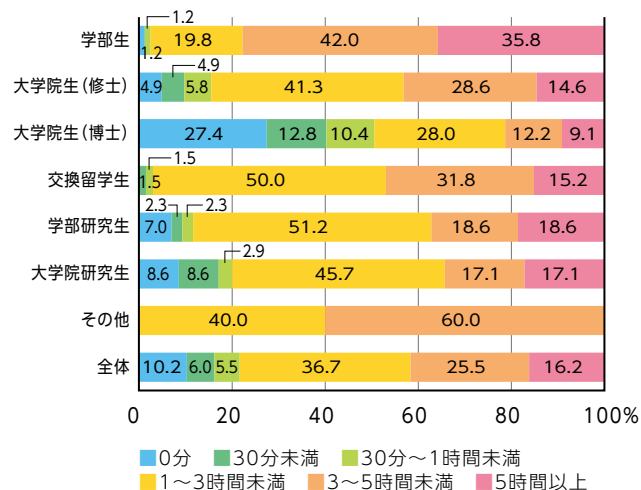


7. 日本語の授業の履修

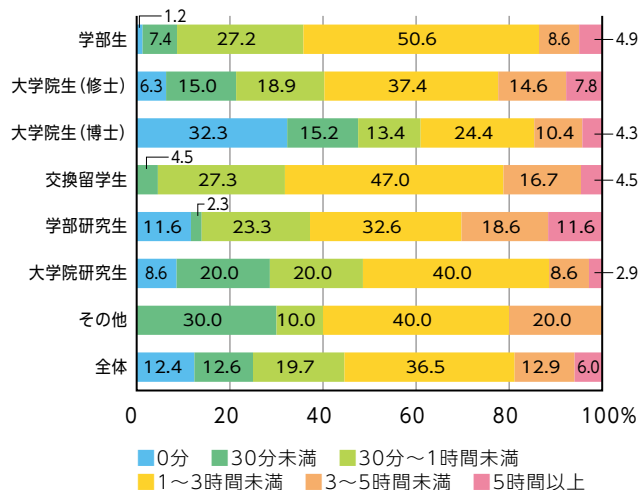


- 大学生活では、過半数以上の学生が英語を使用しているが、日常生活においての使用言語は、日本語、英語それぞれ同程度となっている。
- 学部研究生は、大学生活、日常生活とも日本語使用者が8割を占める。
- 自己申告による日本語のレベルは、初級の学生が30.7%と最も多く、初中級と合わせると全体の半数にのぼる。
- 日本語を勉強したい留学生が90%以上いるのにもかかわらず、実際に日本語の授業を履修しているのはその約半数にとどまっている。特に大学院生(修士・博士)でその傾向が顕著である。

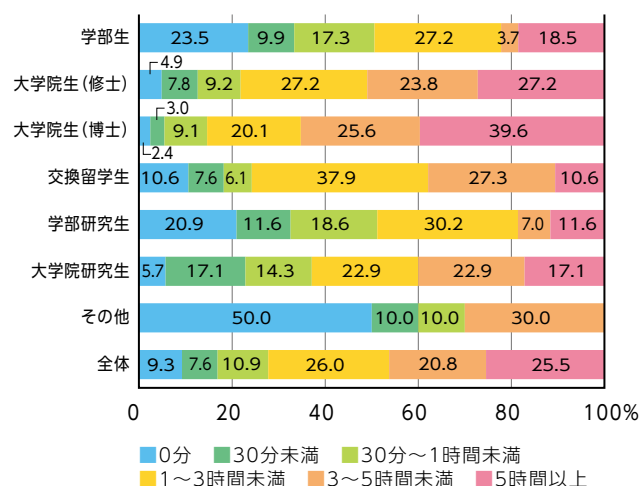
8. 1日あたりの授業時間



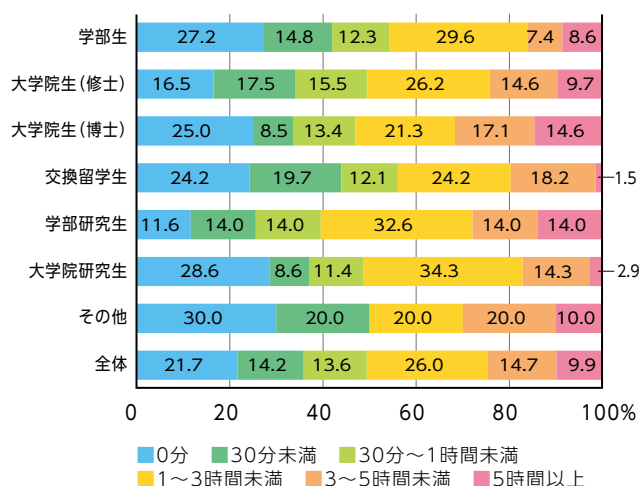
9. 1日あたりの授業のための予習・復習・関連学習時間



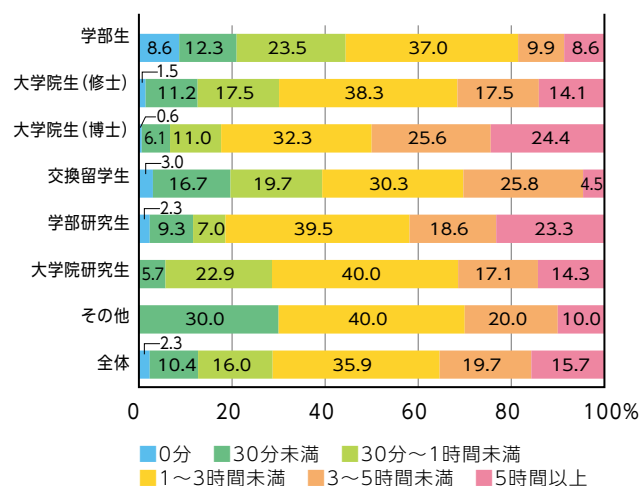
10. 1日あたりの研究・論文執筆時間



11. 1日あたりの資格取得、語学試験等のための学習時間

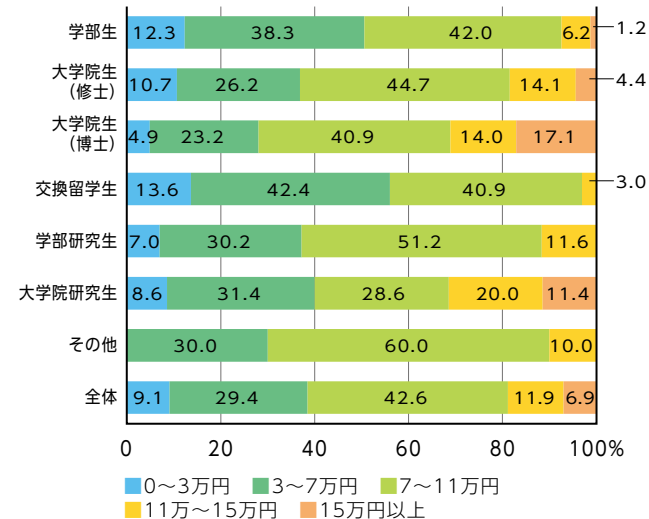


12. 1日あたりの自分の知識や能力を高めるための学習・読書の時間



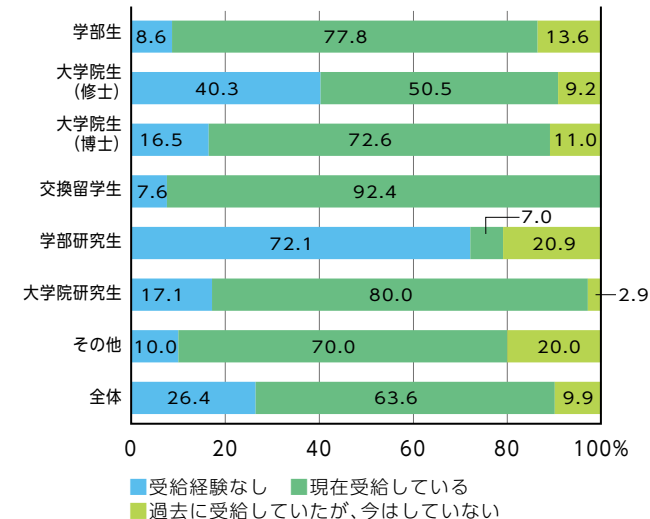
- 1日の授業に使う時間が最も多いのは学部生で、35.8%が5時間以上となっている。
- 学部生、大学院生（修士）、大学院生（博士）と学年が上がるにつれて研究・論文執筆に使う時間が長くなる傾向がある。

13. 1ヶ月の生活費



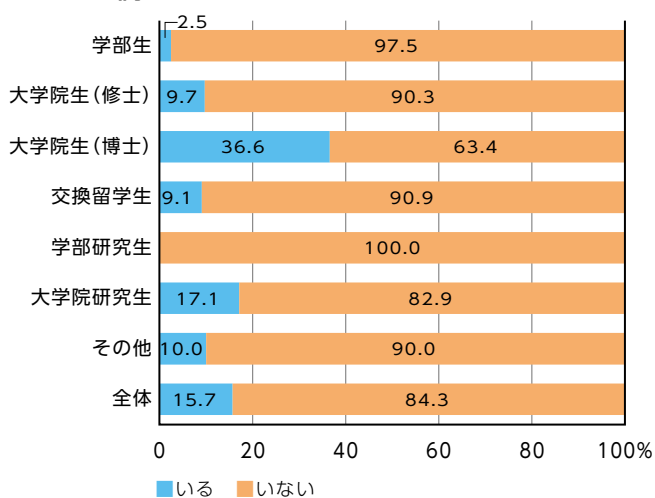
- 全体では 7 ～ 11 万円をあげる留学生が最も多い (42.6%) が、学部生の約半数が 7 万円以下で生活している。
- 1ヶ月の食費で最も多いのは 2 ～ 5 万円で 67.1% にのぼる。

14. 奨学金の受給経験



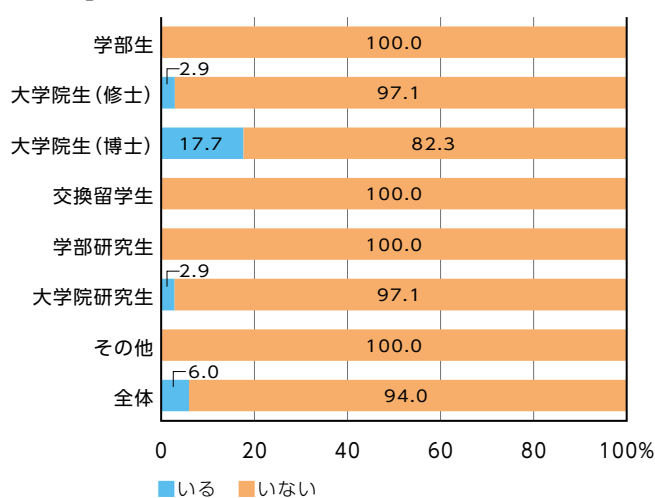
- 63.6% の留学生が現在奨学金を受給している。
- 交換留学生の受給率が最も高く、92.4% であるのに対して、学部研究生の受給率は低く、7.0% にとどまっている。

15. 配偶者・パートナー

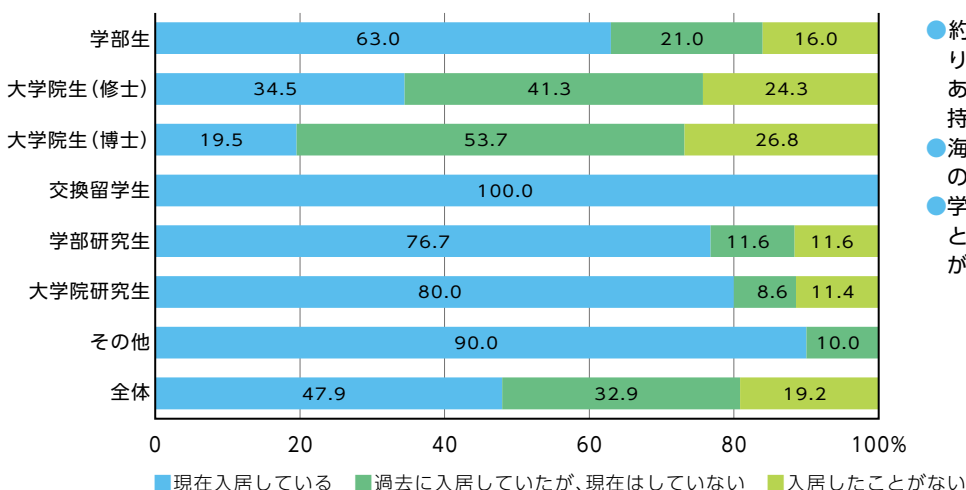


- 配偶者・パートナーがいる留学生は、全体の 15.7% で、大学院生 (博士) が最も多く 36.6% である。
- 子どもがいる留学生の割合は、全体の 6.0% で、大学院生 (博士) が最も多く 17.7% である。

16. 子ども

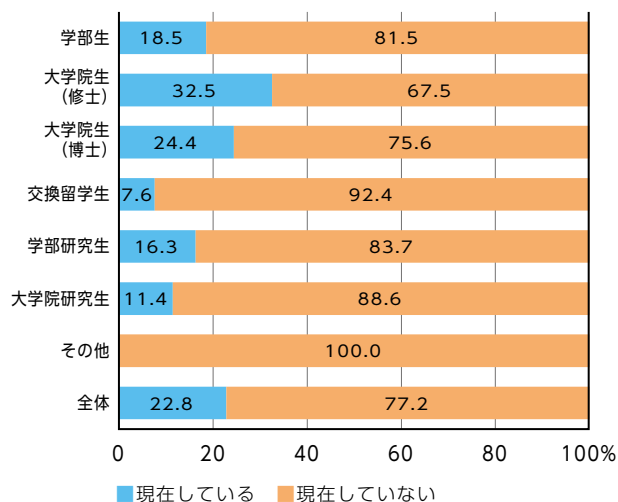


17. 大学の寮への入居

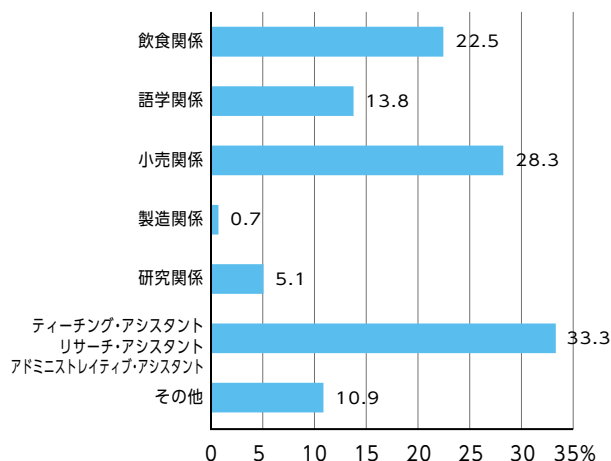


- 約半数の留学生が大学の寮に入居しており、過去に入居していた学生 (32.9%) をあわせ、約 8 割が本学の寮への入居経験を持つ。
- 海外の学術交流協定校から派遣された全ての交換留学生が、現在、寮に入居している。
- 学部生、大学院生 (修士)、大学院生 (博士) と学年が上がるごとに、寮に入居する割合が低くなる。

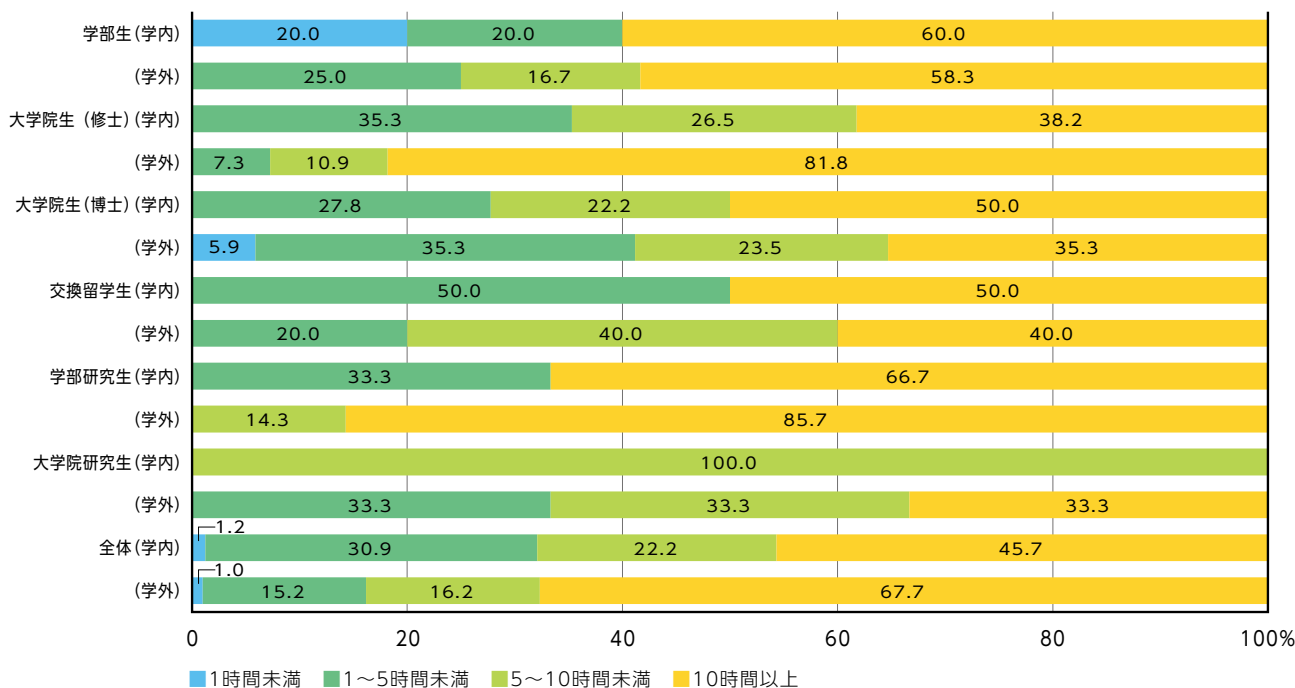
18. アルバイト



19. 現在アルバイトをしている人の職種



20. 現在アルバイトをしている人の1週間あたりの就業時間

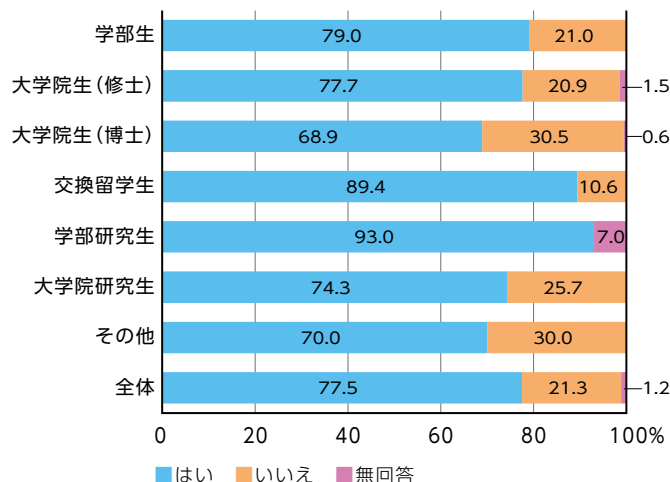


- 現在アルバイトをしている留学生は、22.8%であり、最も割合が高いのは大学院生（修士）の32.5%である。
- 留学生が従事している職種としては、学内のティーチング・アシスタントやリサーチ・アシスタント、アドミニストレイティブ・アシスタントが最も高く、33.3%であった。
- 学内のアルバイトの1週間あたりの就業時間では、1～5時間の比較的短時間のものと10時間以上の長時間のアルバイトの二極化が見られる。
- 学外のアルバイトの1週間あたりの就業時間では、10時間以上のアルバイトが67.7%を占める。大学院生、学部研究生の8割以上が週に10時間以上をアルバイトに費やしている。

2

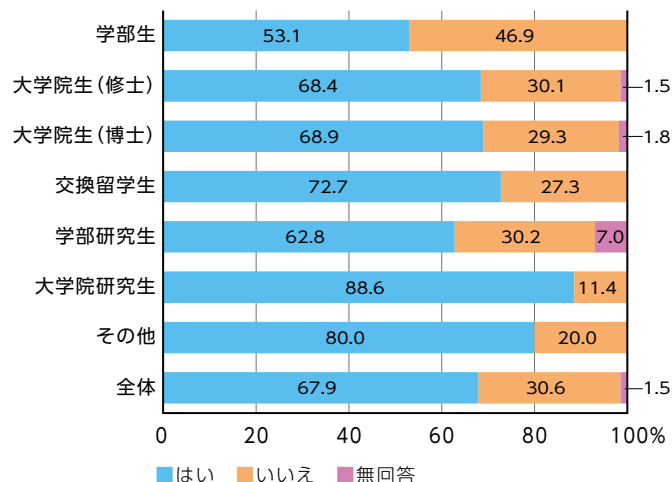
留学の動機・留学情報の収集

1. 日本は留学したい国として第一希望でしたか？



- 日本を留学先国の第一希望であると答えた留学生は、77.5%であった。
- 正規生(学部生、大学院生)に比べ、交換留学生や学部研究生において第一希望と回答した者の割合が高かった。

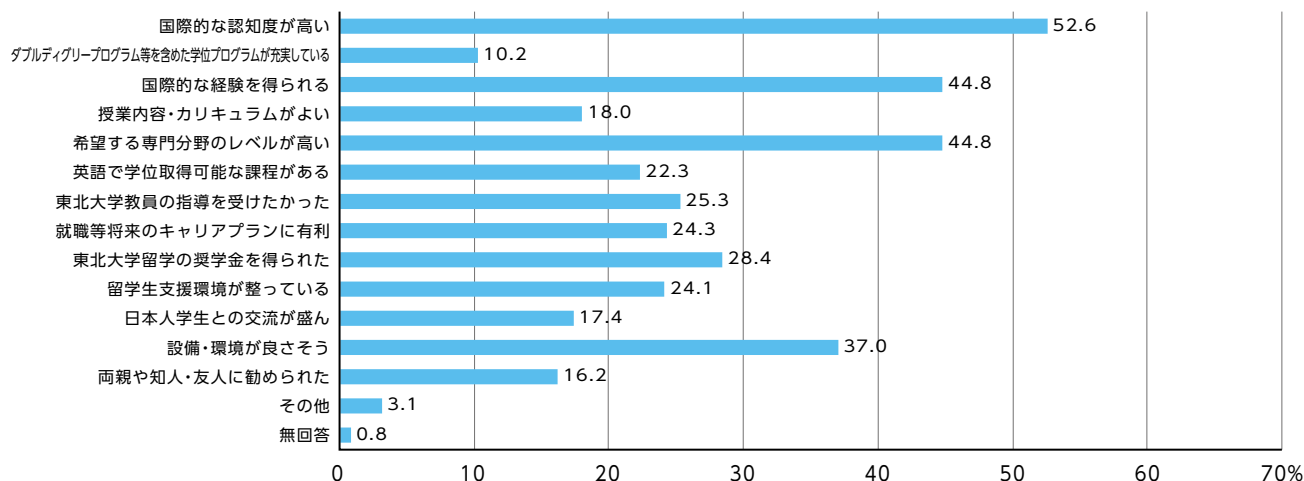
2. 東北大学は日本の中で留学したい大学として第一希望でしたか？



- 東北大学を第一希望とした留学生は全体で67.9%、第一希望ではなかったと回答した留学生は30.6%であった。
- 学部生において東北大学を第一希望とした者の割合は53.1%と低かった。

3. 東北大学に魅力を感じた点(複数回答可)

【全体】



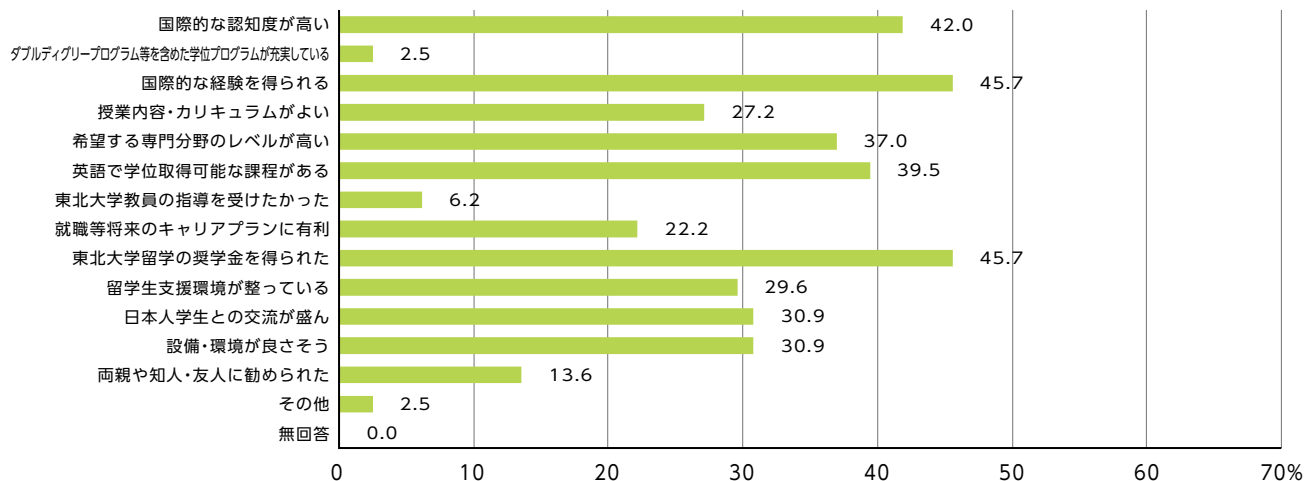
- 東北大学の魅力は、「国際的な認知度が高い」(52.6%)、「国際的な経験をえられる」(44.8%)、「希望する専門分野のレベルが高い」(44.8%)、「設備・環境が良さそう」(37.0%)が上位を占めた。
- 在籍身分別では、学部生は「国際的な経験をえられる」、「東北大学の奨学金を得られた」が45.7%と最も多く、大学院生は「国際的な認知度が高い」(55.4%)、「希望する専門分野の認知度が高い」(46.2%)、交換留学生においては、「国際的な経験をえられる」(60.6%)と、在籍身分により、本学の魅力に対する視点が異なる結果となった。



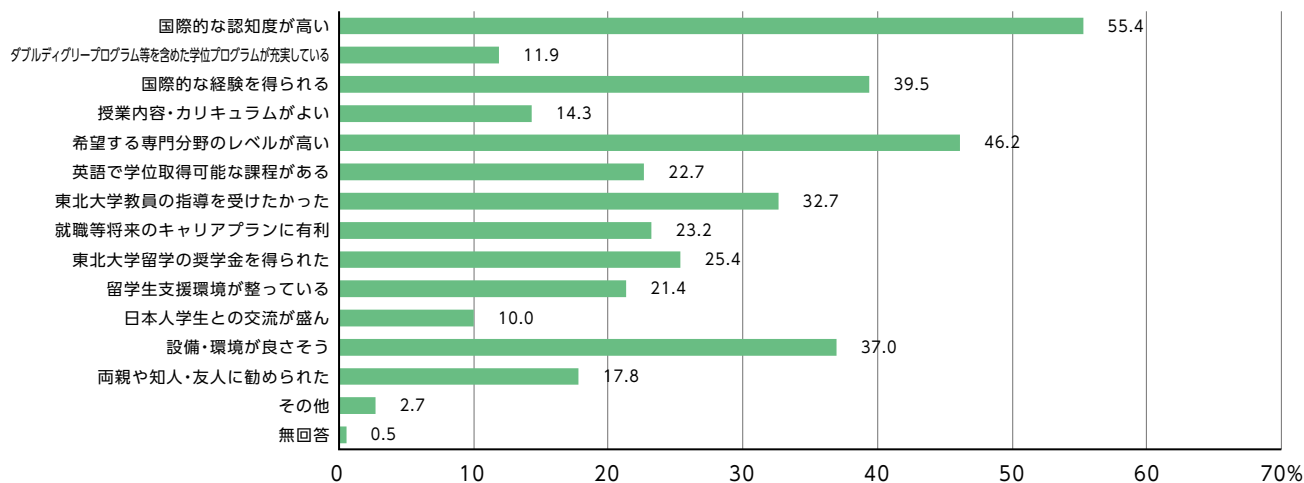
- ▶研究第一主義の伝統。
- ▶仙台は住みやすく、生活費も安いこと。
- ▶東北大学が原籍大学と強い協力関係にあること。

【身分別】

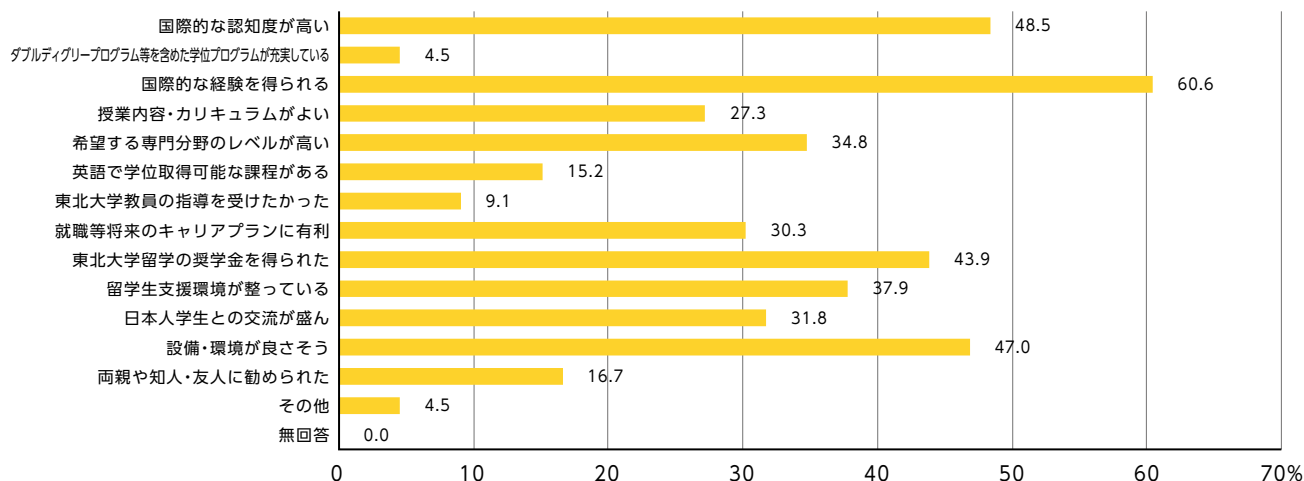
学部生



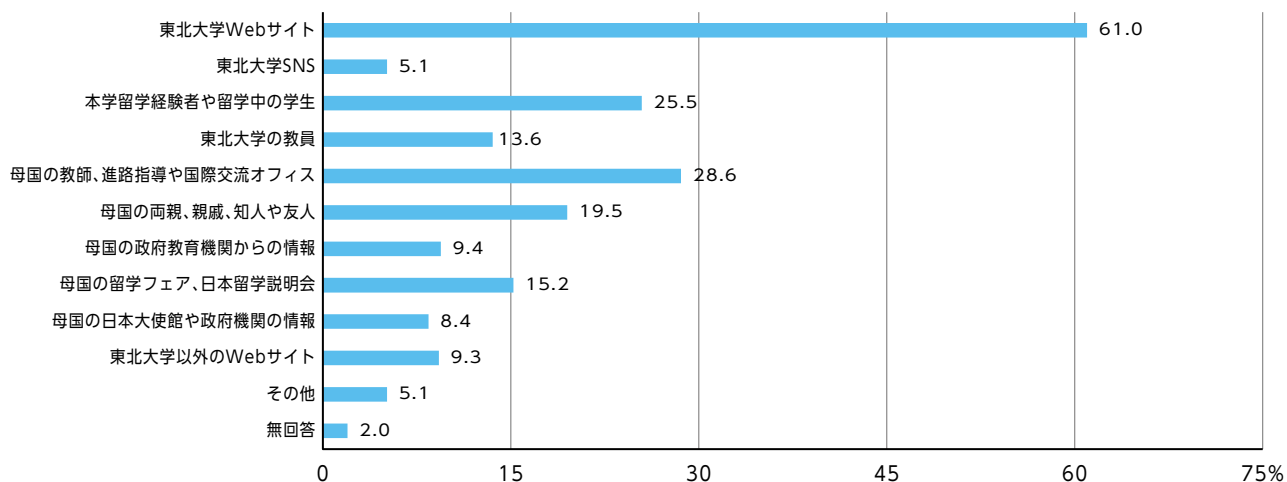
大学院生



交換留学生

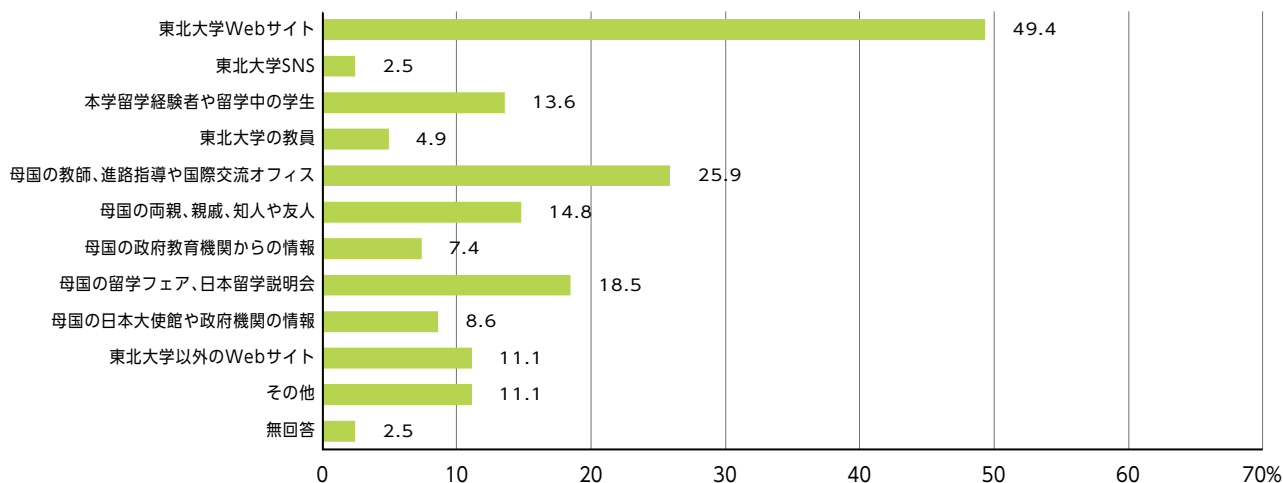


4. 留学前に、どのようにして東北大学や本学の留学プログラムを知りましたか？〈複数回答可〉 【全体】

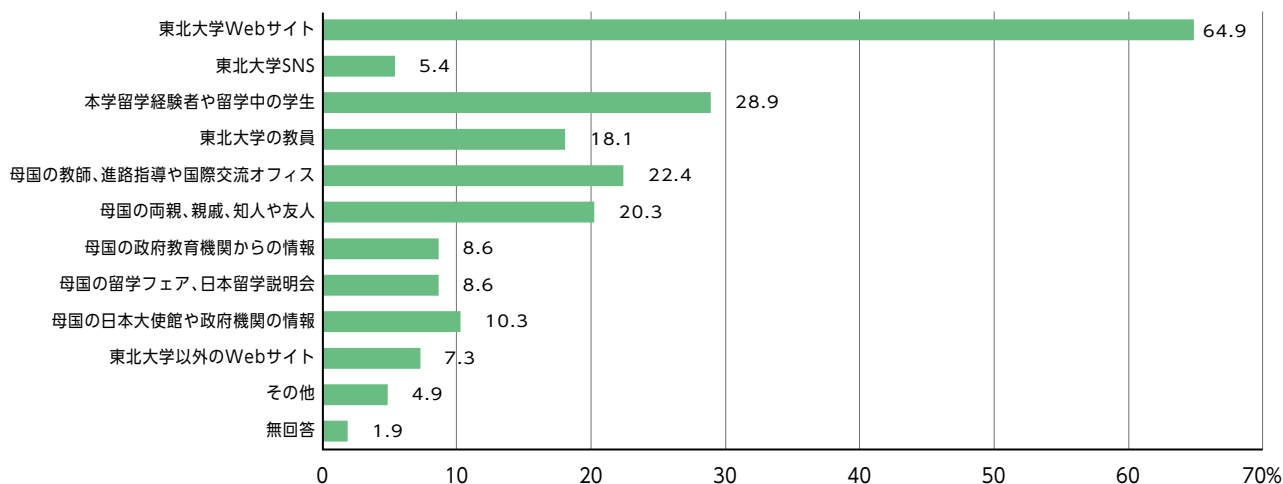


【身分別】

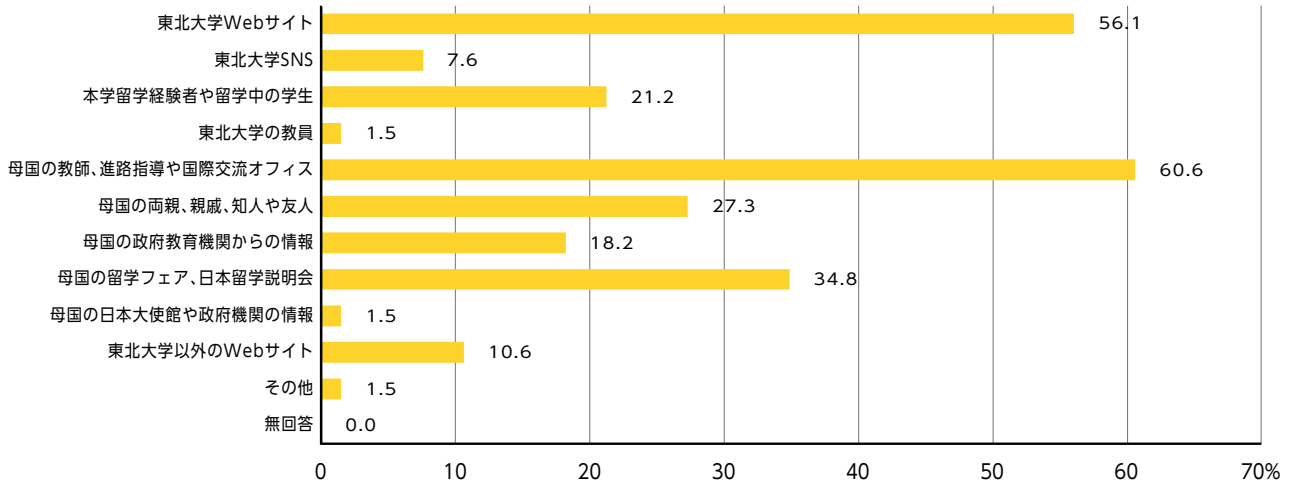
学部生



大学院生

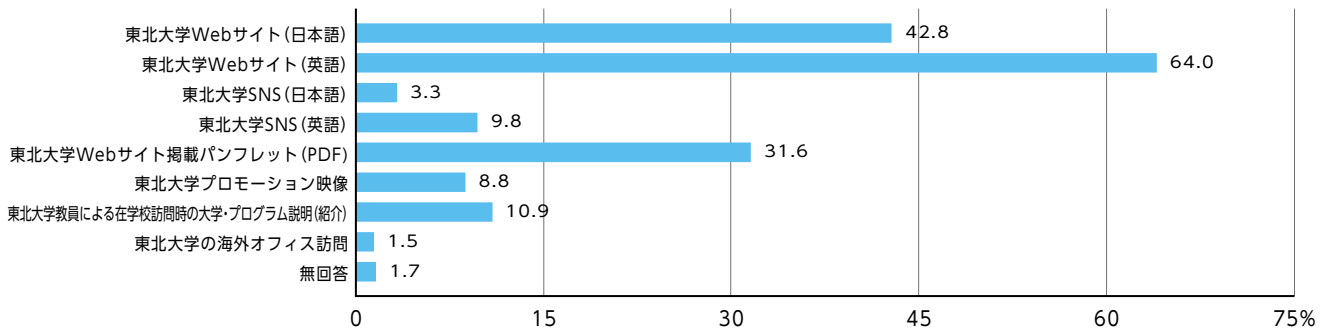


交換留学生



- 回答者全体の61.0%が留学前の情報源として「東北大学 Web サイト」を利用していた。
- ウェブサイトに次いで回答の多かった情報源は、「母国の教師、進路指導や国際交流オフィス」(28.6%)、「本学留学経験者や留学中の学生」(25.5%)、「母国の両親、親戚、知人や友人」(19.5%)であった。
- 交換留学生においては、60.6%が「母国の教師、進路指導や国際交流オフィス」を情報源としており、東北大学ウェブサイトよりも利用割合が高かった。
- 東北大学以外のウェブサイトにおいては、「G30 ウェブサイト」や「日本学生支援機構 JASSO」のウェブサイト等が挙げられた。

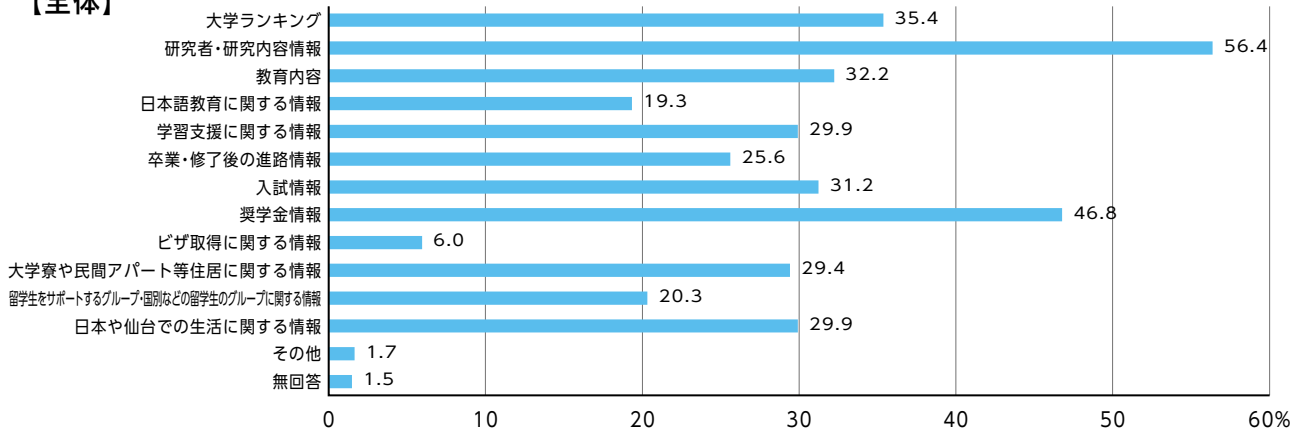
5. 参考にした情報源は何ですか？〈複数回答可〉



- 留学前の情報源は、「東北大学 Web サイト(英語)」が最も多く、64.0%であった。続いて「東北大学 Web サイト(日本語)」(42.8%)、「東北大学 Web サイト掲載パンフレット(PDF)」(31.6%)と、本学 Web サイトの利用が上位を占めた

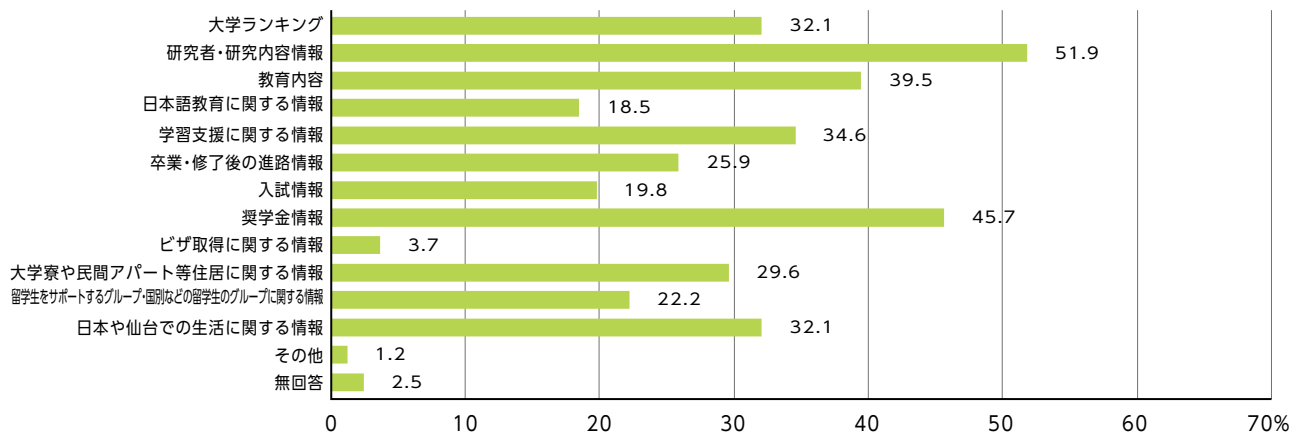
6. 東北大学への留学について準備していた時に、どのような情報がもっと十分にあればよかったと思いますか？〈複数回答可〉

【全体】

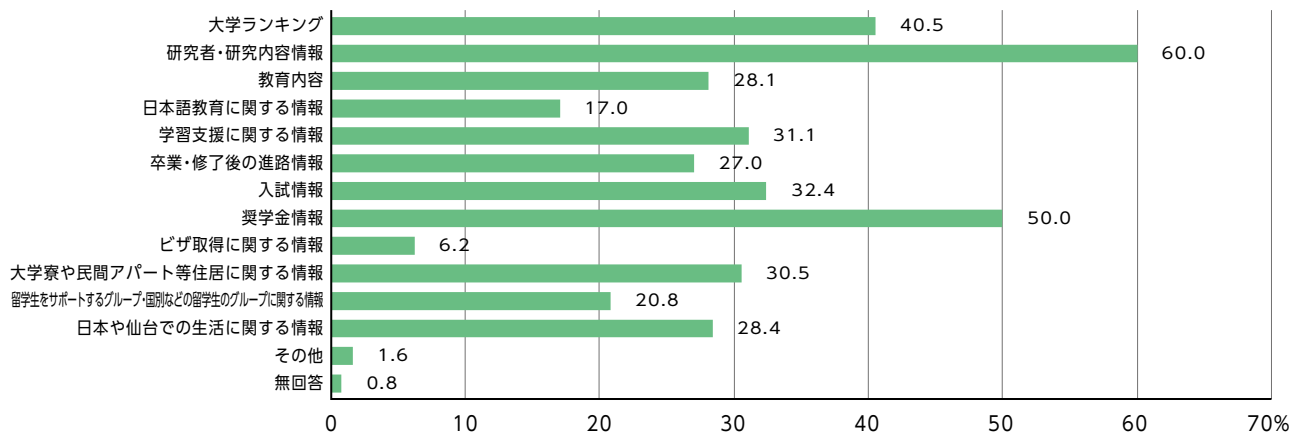


【身分別】

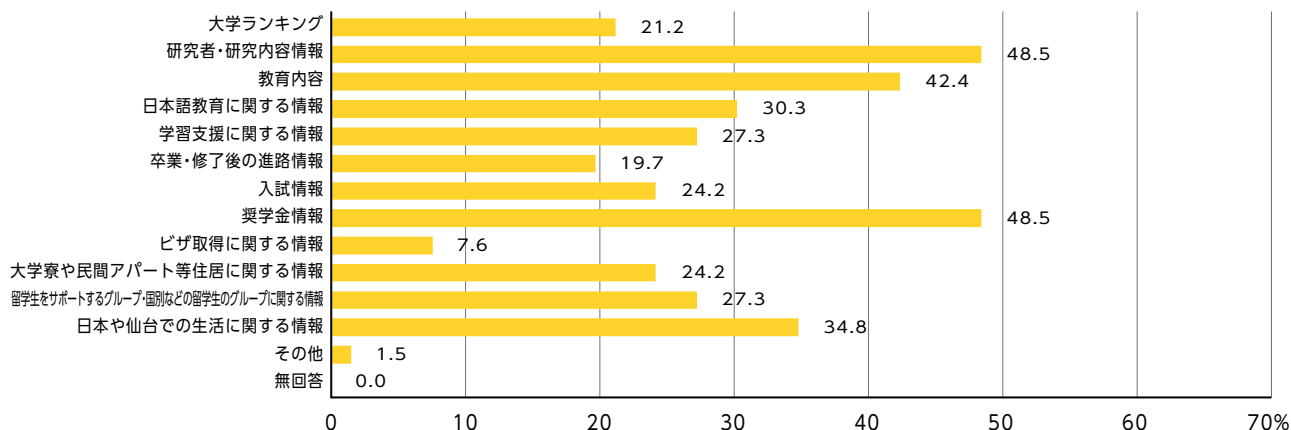
学部生



大学院生



交換留学生



● 回答者全体では留学前に知りたかった情報は、「研究者・研究内容情報」(56.4%)が最も多く、次いで「奨学金情報」(46.8%)、「大学ランキング」(35.4%)となった。

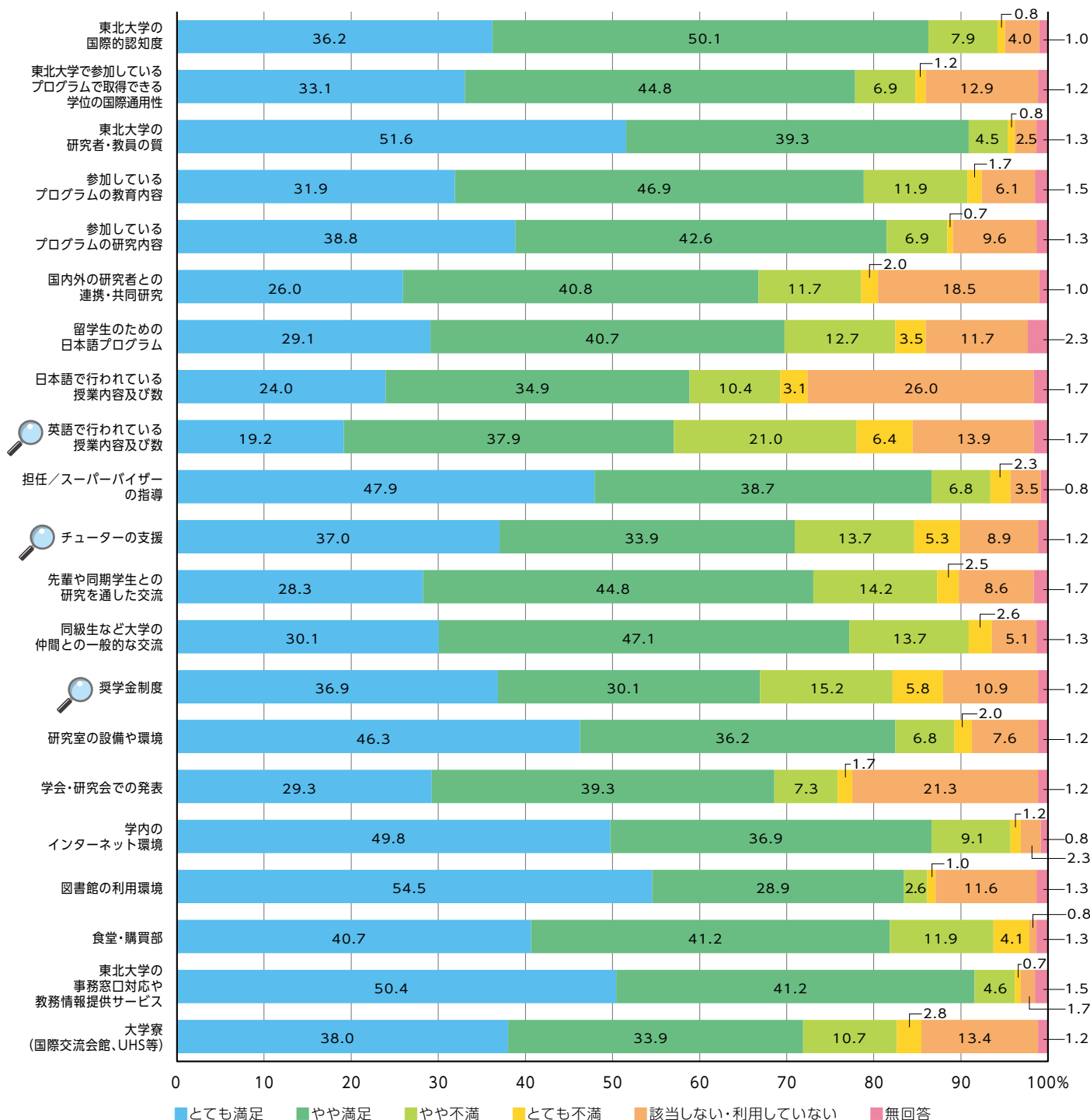


- ▶ 履修登録方法や、開講科目情報をホームページに分かりやすく掲載してほしい。
- ▶ ハラルフードに関する情報を提供してほしい。
- ▶ クラブやサークルへの参加方法を紹介してほしい。

3

学習・研究環境の満足度

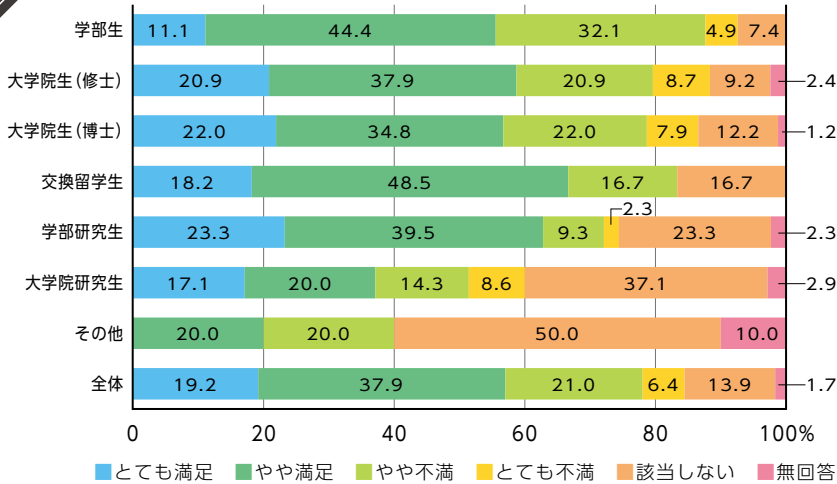
1. 東北大学の学習・研究について、どの程度満足していますか？



- 本学の学習・研究環境において、留学生の満足度が高い項目は、「研究者や教員の質」（とても、やや満足合わせて 90.9%）、「担任／スーパーバイザーの指導」（同 86.6%）等の、教員の研究・教育活動に関するものであった。
- 「学内のインターネット環境」（同 86.7%）「図書館の利用環境」（同 83.4%）といった学内の施設設備や「事務窓口対応や教務情報提供サービス」（同 91.6%）などの学生サービスに関する項目でも高い満足度が見られた。
- 不満が比較的多い項目は、「英語で行われている授業及び内容」（やや、とても不満合わせて 27.4%）「奨学金制度」（同 21.0%）であった。



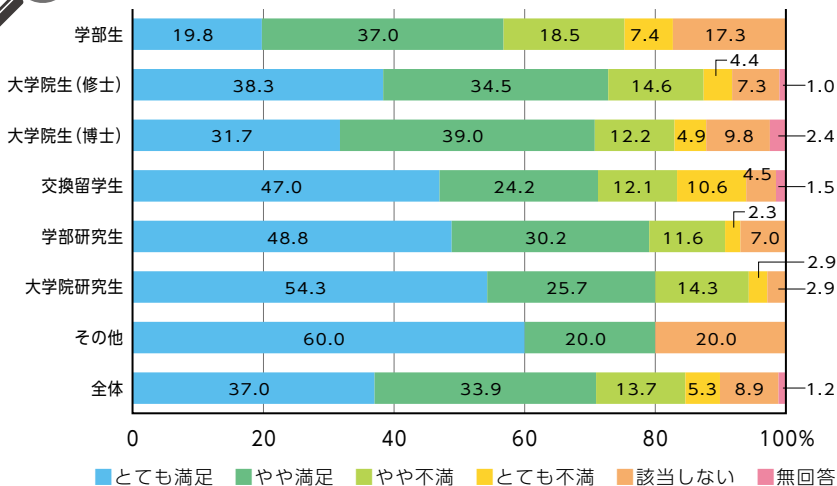
英語で行われている授業内容及び数



- 「英語で行われている授業内容及び数」の満足度を身分別に見ると、学部生の37.0%、大学院生（修士）の29.6%、大学院生（博士）の29.9%の回答者が「やや、またはとても不満」と回答した。
- 大学生活で使用する言語の別に解析した結果、大学で主に英語を使用する留学生の29.3%がこの項目に対して、やや、またはとても不満と回答した。



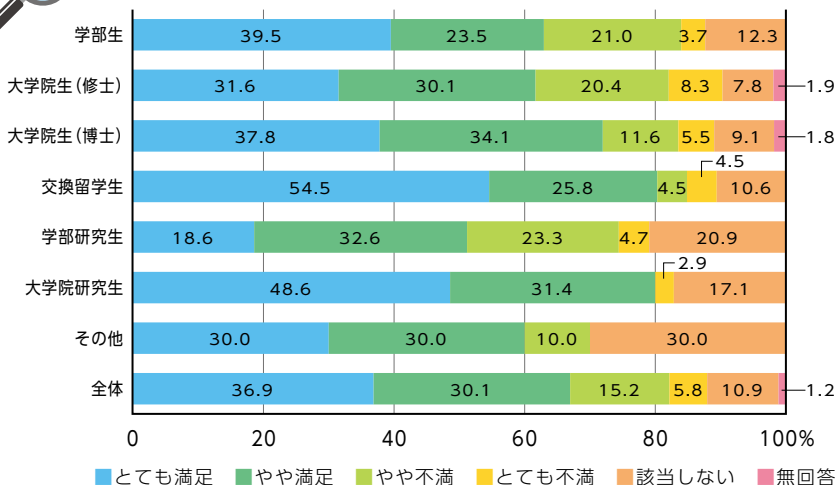
チューターの支援



- 「チューターの支援」については全体では満足度は高いが、(やや、とても満足合わせて70.9%)、身分別に見ると、学部生の25.9%、交換留学生の22.7%の回答者がやや、またはとても不満、と回答した。
- チューター以外の学生交流についても「同級生など大学の仲間との一般的な交流」についても、交換留学生の23.7%はやや、または不満と回答していた。



奨学金制度

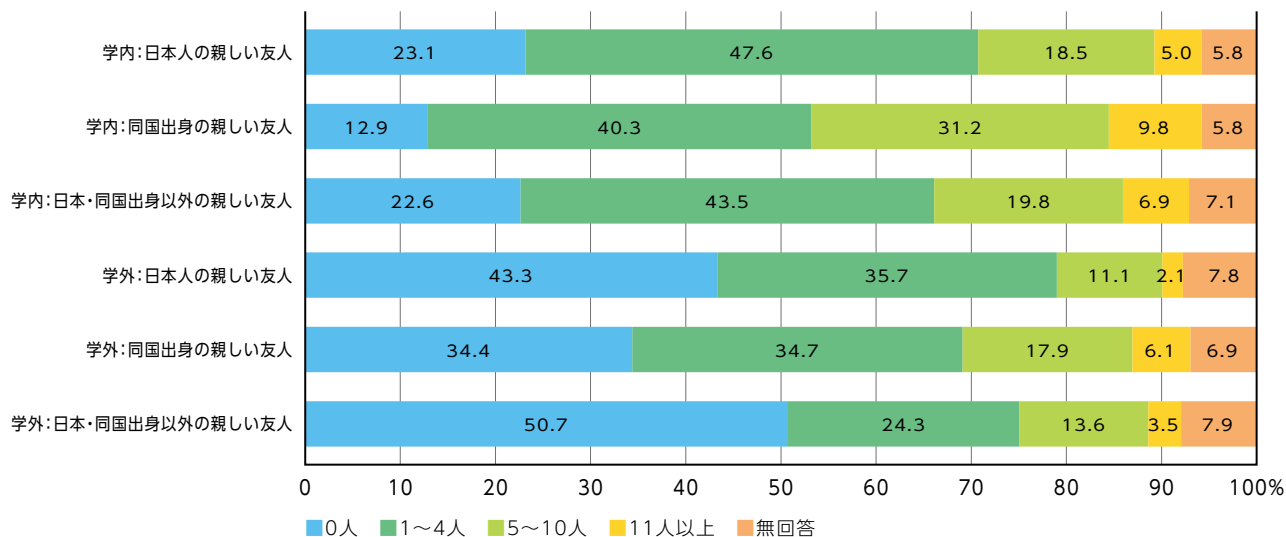


- 「奨学金制度」には、回答者のうち67%がやや、もしくはとても満足と回答し、交換留学生の満足度が最も高かった。
- 他方、不満の回答者も全体で21.0%いた。最も高い不満を示したのは大学院生（修士）で、(やや、とても不満合わせて28.7%)、次いで学部研究生（同28.0%）、学部生（同24.7%）であった。

4

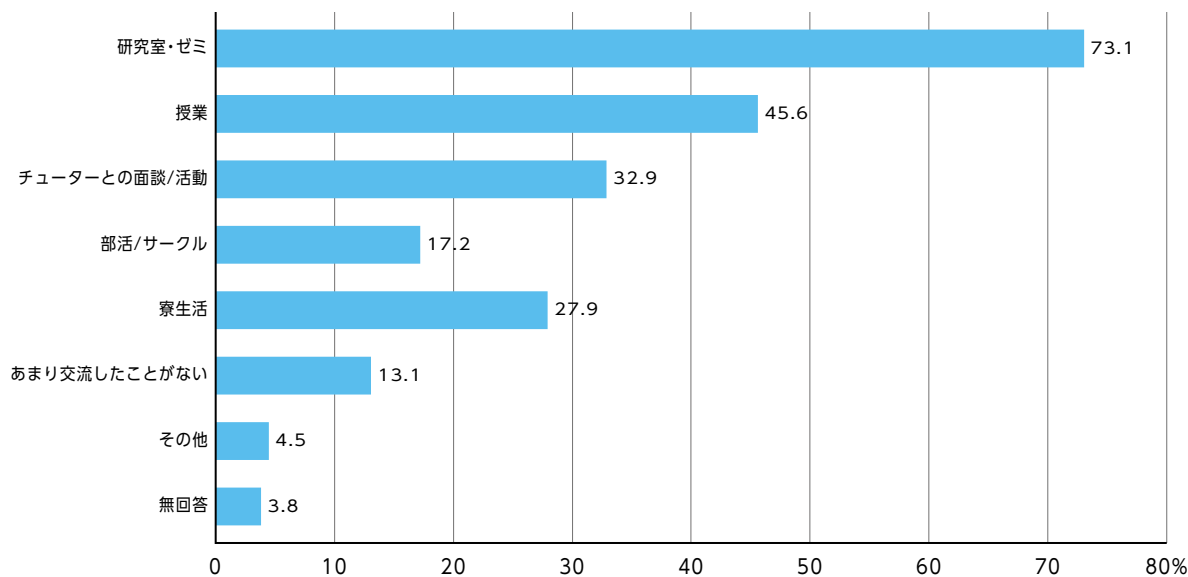
生活面・留学生支援の満足度

1. どのような友人が多いですか?それぞれ、人数をお教えてください。



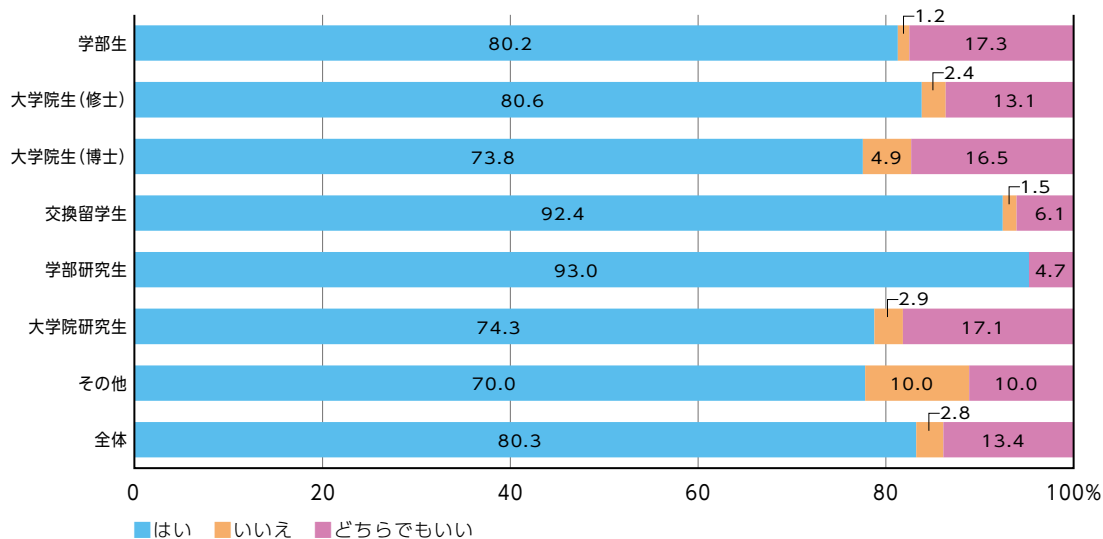
- 23.1%の学生が学内で、43.3%が学外で日本人の親しい友人が全くいない（0人）と回答している。7割以上が、学内の日本人の親しい友人を4人以下、と回答しており、学外では約8割となっている。特に学部研究生で「0人」と回答した割合が34.9%と高い結果となった。
- 12.9%の学生が学内に同国出身の親しい友人がいない（0人）と回答し、また、友人を4人以下としたものが半数近くにのぼることから、留学生の孤立が懸念される。

2. これまで学内でどのような時に日本人と交流しましたか?〈複数回答可〉



- 日本人との交流機会については、「研究室・ゼミ」が全体で73.1%と最も高く、学部生の43.2%を除き、すべての身分で60%以上と高い結果となった。
- 「チューターとの面談/活動」(32.9%)が貴重な日本人との交流機会になっていることも明らかとなった。
- 「寮生活」は、全体では27.9%であったが、学部生や交換留学生は約40%と、他の身分に比べて高かった。

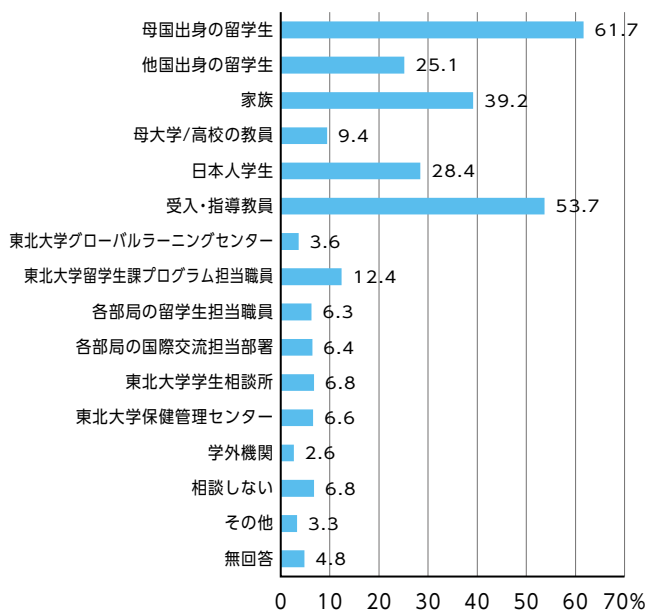
3. あなたは日本人学生ともっと交流したいですか？



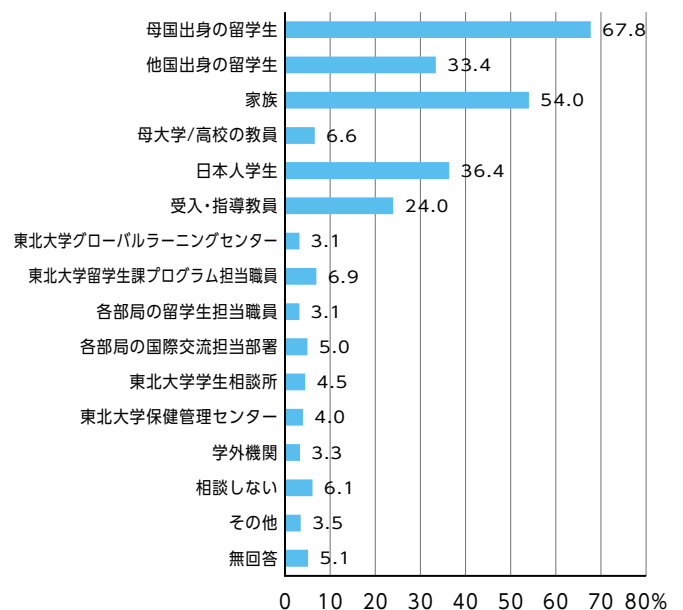
- 全体では80.3%の学生が「もっと日本人学生と交流したい」と回答した。特に、学部研究生(93%)と交換留学生(92.4%)でその割合が高かった。
- 「どのような交流機会が望ましいか？」(複数回答可)という質問では、「イベント参加」(61.1%)、次いで「日本の文化・歴史・社会慣習を知ることができる交流」(45.3%)と「日常的な交流」(44.9%)を選んだ学生が多かった。大学院(博士)では、「日常的な交流」(33.9%)よりも、「日本の文化・歴史・社会慣習を知ることができる交流」(57.9%)を望む声が多かった。
- 「交流を望まない理由」(複数回答可)として、「時間がない」(45.9%)、「日本語、コミュニケーションが苦手」(31.6%)をあげた学生の割合が高かった。

4. あなたは悩みや心配事を誰に相談しますか？

【学業について】

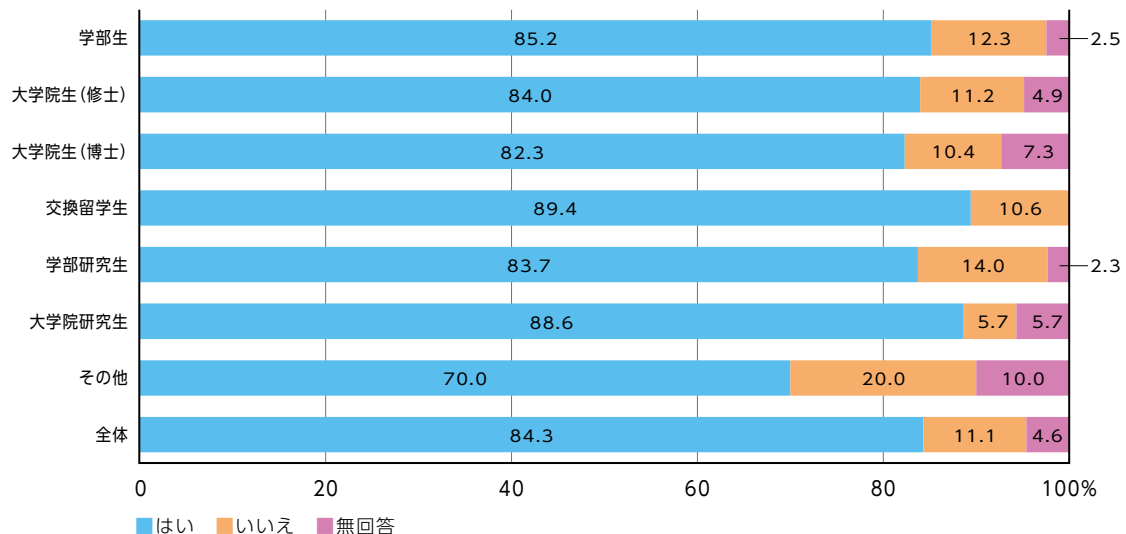


【生活について】



- 学業・生活ともに、「母国出身の留学生」に相談をすると回答したものが、それぞれ61.7%、67.8%と高かった。
- 学業・生活それぞれにおいて、「受入・指導教員」の割合が異なる(学業:53.7%、生活:24.0%)ことを除いて、全体的には同じ傾向を示した。

5. 現在の住居に満足していますか？



- 全体では、84.3%の学生が「満足」と回答している。全員が大学寮に入寮している交換留学生で、特に満足度が高い(89.4%)。
- 自由記述のコメントでは、大学寮、ユニバーシティハウス三条に対する満足度が高い。
- 同じく自由記述で、大学による住宅補償制度を利用し、民間のアパート等に居住する学生も多いことも明らかとなった。他方、「入寮期間の延長」、「寮設備の改善」等が改善して欲しい点として挙げられた。



③ 学習・研究環境の満足度と
④ 生活面・留学生支援の満足度の自由記述より
※ 学生からの声を、そのまま(英語による回答は和訳して)記載

【教育・カリキュラム】

- ▶ もっと先生と学生の意見交換の機会が多い授業を受けたかった。先生がずっと話し続けるため、1.5時間も集中することはできず、退屈に感じるが多かった。
- ▶ 統計学、研究の方法論等に関する医学、歯学分野の英語の授業が開講されておらず、研究で有名な東北大学としてはよくないことだと思う。
- ▶ 英語で行われる授業をより多く開講すべき。すべての授業が日本語で行われるため、適切な教育を受けることができない。これではテキストを使用し自習するのと同じ。英語で書かれたスライドとテキストだけでは理解することが難しいので、授業が英語で行われることを望む。
- ▶ 国際大学院コースに所属しているが、幾つかのクラスやセミナーは日本語で開講されている。
- ▶ 多くの日本語のクラスは日本語履修を想定されている文科省奨学生や交換留学生向けに、午前中の開講で設定されている。より長く日本に滞在するであろう博士課程の学生向けに、夕方のクラスの開講を希望する。
- ▶ 授業は内容が高度で面白かった。一つだけ心配だったのは、授業で学んだ理論を用いた演習をする機会が限られていたこと。理論は大変面白く、理論が書かれたレジュメは必要不可欠だが、学生にとっては演習問題を解くこともかなり有用であると思う。

【学習・研究・キャリア支援】

- ▶ 私の指導教員はとても忙しく、卒論や修論の直前になってやっと学生のことを見始めるため、その期間は学生は他のことを全くできない。指導教員は、学生が問題を抱えていないか見極め、早めに対処すべき。そうでなければ学生が卒業できない事態に陥るかもしれないので。

- ▶ 留学生に送るメールは日本語ではなく英語にしてほしい。ほとんどのメールが日本語で来るため、毎回友達や先生に訳してもらう必要がある。
- ▶ FGL プログラムの留学生たちに対して、研究者になるための道は十分に用意してありますが、日本で就職を考えている人への就職支援は大学側にしっかり改善してもらいたい。

【国内学生との交流】

- ▶ 私にとって日本語を学ぶことは重要でしたが、同時に日本人学生に、もっと恥ずかしがらずに英語を話してほしい。少なくとも大学院生には、ゼミ等で英語でプレゼンテーションをすることを必須してほしい。そうすれば、留学生と日本人学生の間で、より多くの研究に関する議論ができると思う。
- ▶ 日本人学生と留学生が交流できるようなイベントをもっと開催すべき。その点で、IPLAやIMAC-Uの学生の待遇の良さに驚く。また、部活やサークルは外国人には少し入りづらい雰囲気。
- ▶ 日本人学生と交流できる機会がもっと多くあればよいと思った。サークルなどに参加しない限り交流の機会がかなり限られると思う。
- ▶ 日本人学生のことはあまり理解できなかったが、留学生支援が手厚かった。

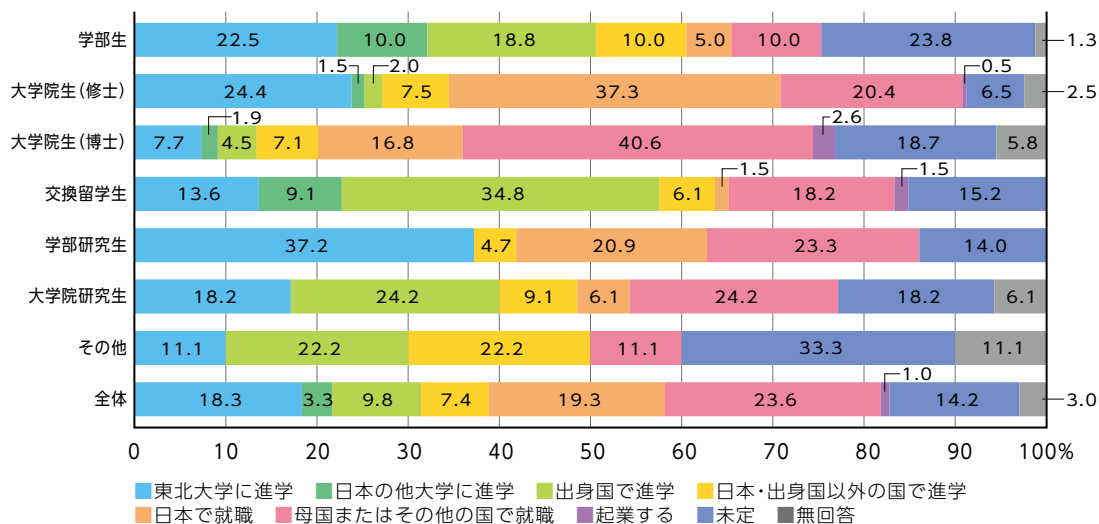
【施設】

- ▶ 図書館が22時に閉まるのはおかしい。
- ▶ カフェテリア(学食)のメニューのバラエティーが少ない。星陵地区にはサラダバーがなく、あってもサラダバーはすぐに売り切れ、おかずも揚げ物が多い。イスラムの学生が多いのに適切な英語での説明がない。豚の絵のマークだけでもあるとずいぶん助かる。
- ▶ インターナショナルハウスにもっと住みたかった。1年は短すぎる。卒業まで寮に住めればよい。
- ▶ 現在寮に住んでいますが、安いし快適です。
- ▶ キャンパスバスがなくなり不便。

5

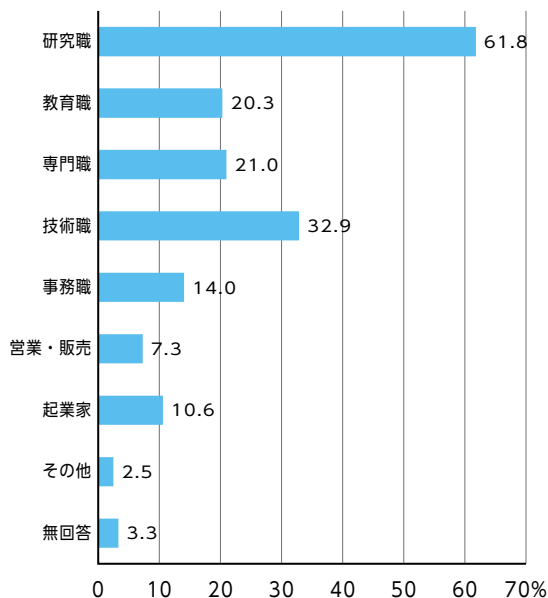
卒業後の進路

1. 今後の進路で最も可能性の高いものについて



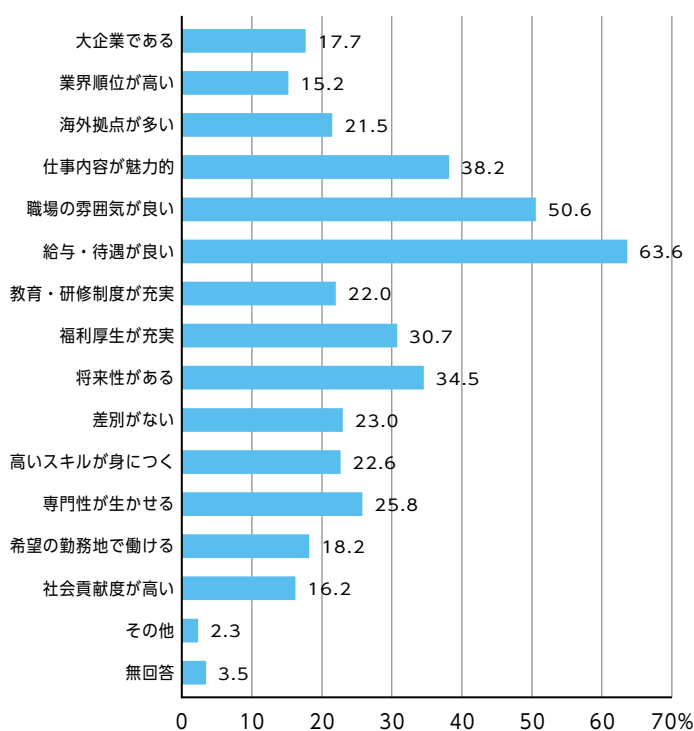
- 全体では、「母国またはその他の国で就職」が23.6%と最も多く、「日本で就職」(19.3%)、「東北大学に進学」(18.3%)と続いた。
- 日常生活において日本語を使用すると回答した学生では、「日本で就職」が34.9%と最も多かった。英語を使用する学生では、「母国またはその他の国で就職」が27.4%と最も多く、「日本で就職」は10.5%にとどまった。

2. 将来希望する職業〈複数回答可〉



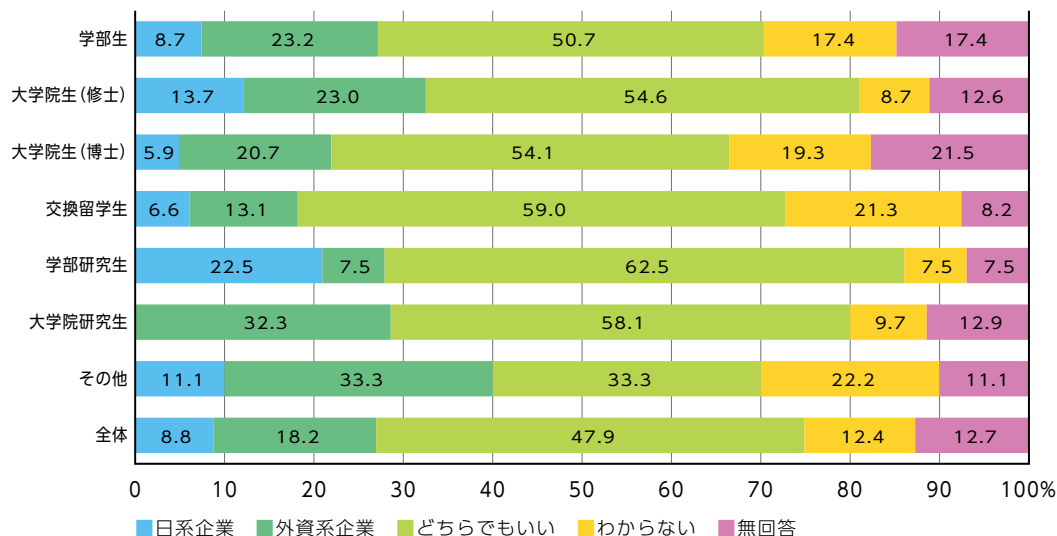
- 全体では「研究職」が61.8%と最も多く、「技術職」(32.9%)、専門職(21.0%)、教育職(20.3%)がそれに続いた。
- 日常生活で日本語を使用する学生の「事務職」志望は22.7%だが、英語を使用する学生では8.3%にとどまった。
- 日常生活で英語を使用する学生には「技術職」を希望するものが多かった(35.8%)。

3. 就職先を選ぶ際に重視すること〈複数回答可〉



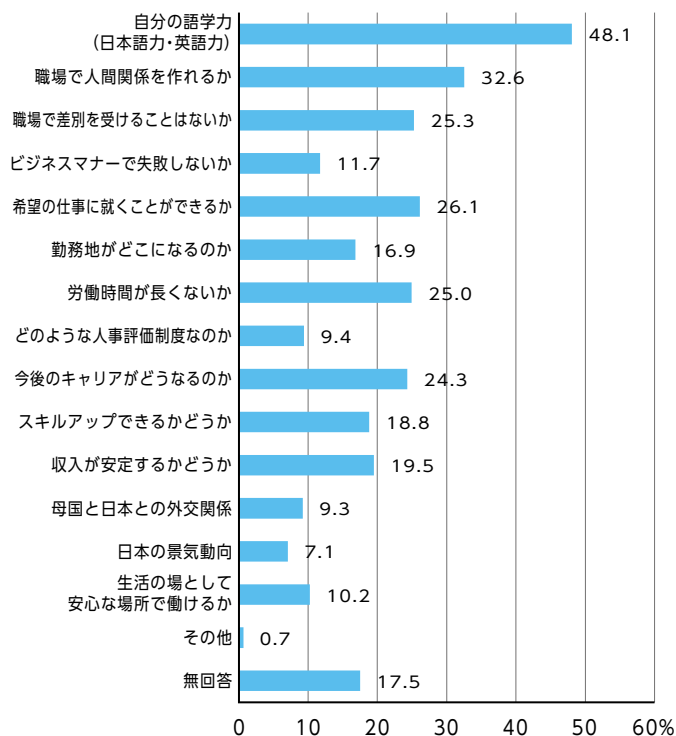
- 全体では、「給与・待遇が良い」が63.6%と最も多く、「職場の雰囲気が良い」(50.6%)、「仕事内容が魅力的」(38.2%)、「将来性がある」(34.5%)と続いた。「大企業である」は17.7%にとどまった。
- 日常生活で日本語を使用する学生の「仕事内容が魅力的」(51.1%)に対し、英語の学生は30.1%であった。また、英語の学生の「専門性が生かせる」(32.3%)に対し、日本語の学生は15.6%と、生活言語の違いで志向が異なることが分かった。

4. 就職を希望する企業の種類について



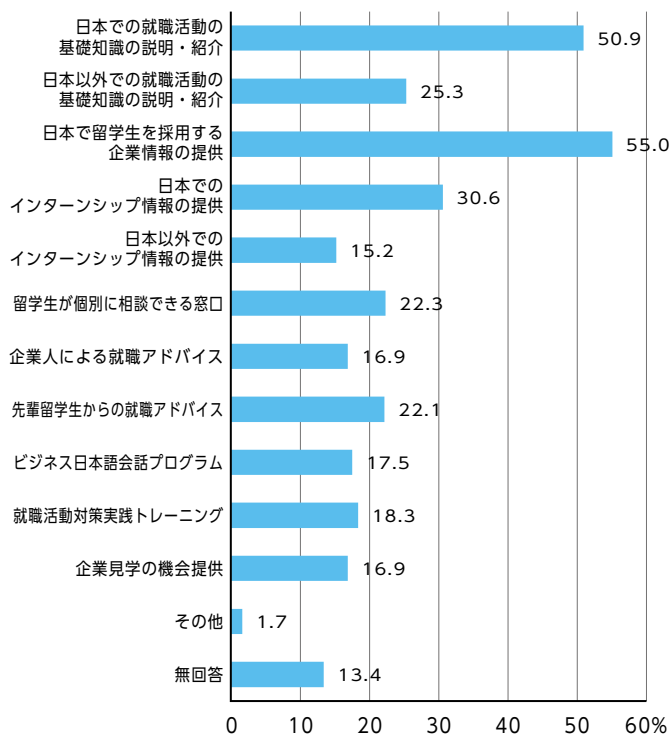
- 企業への就職を希望する学生のうち、「どちらでもいい」が47.9%と最も多く、「外資系企業」(18.2%)がそれに続いた。「日系企業」は8.8%にとどまった。
- 「どちらでもよい」と回答したものは、日常生活で日本語を使用する学生で63.2%、英語は49.5%と差がみられた。英語を使用する学生では、「わからない」、「無回答」が多く、あわせて36%に達した。

5. 就職に対する不安について〈複数回答可〉



- 就職に対する不安で最も多いのは、「自分の語学力」(48.1%)で、「職場での人間関係」(32.6%)、「希望の仕事に就くことができるか」(26.1%)がこれに続いた。
- 日常生活で日本語を使用する学生の回答で顕著なのが、「職場で人間関係を作れるか」(45.3%)、であったのに対して、英語の学生は24.5%と、大きな差がみられた。

6. 大学で受けたい就職支援サービスについて〈複数回答可〉



- 全体で最もニーズが高いのは、「日本で留学生を採用する企業情報の提供」が55.0%、次いで「日本での就職活動の基礎知識の説明・紹介」(50.9%)、「日本でのインターンシップ情報の提供」(30.6%)がこれに続いた。
- 日常生活で英語を使用する学生では、日本国内・海外でのインターンシップを合わせると、52.2%の学生がそうした機会の情報提供を希望し、日本語の学生(35.6%)に比べ、そのニーズが高いことが示された。



実 施：高度教養教育・学生支援機構グローバルラーニングセンター
国際連携推進機構
<http://www.insc.tohoku.ac.jp>